

「どくだみ」と「おおばこ」による 東京湾岸の方言区画

佐々木 英 樹

The dialectal structure of the Tokyo Bay Area
through the names of two kinds of medical plants

Hideki SASAKI

ABSTRACT

Ferdinand de Saussure (1916/1964) *Cours de Linguistique Générale*, Payot, has been one of the most essential classics to linguists. Regarding dialectology, he writes the following propositions (Translated by Wade Baskin) —

1

Since there is no such thing as absolute immobility in speech, the language will no longer be the same after a certain length of time. (p. 273)

2

Evolution will not be uniform throughout the territory but will vary from zone to zone ; no records indicate that any language has ever changed in the same way throughout its territory. (p. 273)

It may be better to say that the first supposition signifies the feature of 'time' for language, and that the second one the feature of 'space' for language.

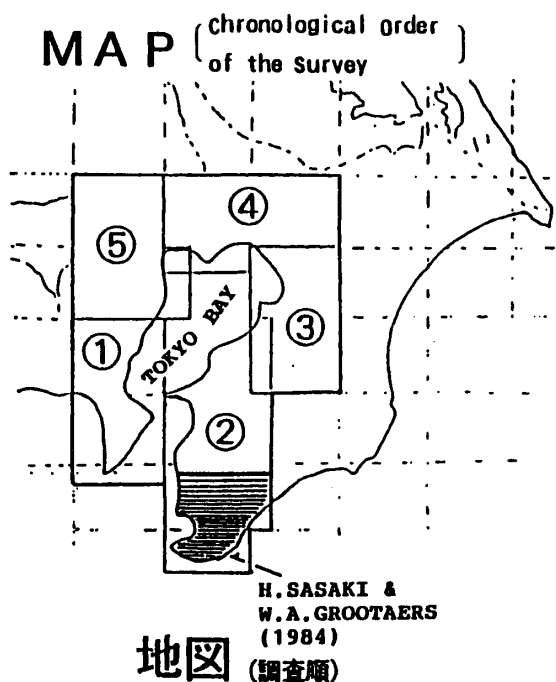
I would like to add the following more concrete tactics of mine to the above two basic propositions. I was pretty content with carrying out these approaches in the present paper.

How to grasp dialectal currents so as to construct a dialect area ?

1 To increase the number of localities to study as much as possible,

2 To make the meshes for fieldwork as minute as possible, and

3 To hold a brief and substantial interview with informants in the field.



●方言区画の方法＝分布の流れをつかむ●

- 1) 調査の範囲を広くする、
- 2) 調査の網の目を細かくする、
- 3) 長く同じ場所で生活している人にアンケートを向ける（臨地調査のさいに尋ねる）。

『東京湾岸言語地図』の項目 No. 51どくだみと項目 No. 52おおぼこの資料をもとに、東京湾岸の方言区画に迫る。『東京湾岸言語地図』は、1982年から1997年までの間、臨地調査を行ったものである。それに基づいて東京湾岸の方言区画を計画したもの。今回はその中から項目 No. 51「どくだみ」と項目 No. 52「おおぼこ」に基づいたものである。

0 「東京湾岸方言」の定義

「東京湾岸言語調査」で得た言語資料は、いわゆる標準語・方言などすべてを、書記言語に対する口頭言語と位置づける。したがって、「東京湾岸方言」とは、「東京湾岸言語調査」で得られた言語資料とする。

「東京湾岸言語地図」で扱っている範囲は、房総半島南端（安房郡・館山市を中心に）から始まり――→富津市――→君津市――→木更津市――→袖ヶ浦市――→市原市――→千葉市――→江戸川以東の印旛沼を含む下総地方――→江戸川以西（浦安市を含む）の東京――→南東京・川崎市――→横浜市・三浦半島で終わる。

第一段階：北に江戸川を、南に走水（横須賀）と富津岬の間に狙いをおいて線を引く。東側が千葉県、西側が東京都・横浜市・三浦半島等を含む。西側は簡単に東京・横浜でもいい。

第二段階1：東側の千葉県は、(1)房総半島南端（安房郡・館山市を中心に）、(2)富津市←→市原市、(3)千葉市←→江戸川東側の下総地方。

東京湾岸方言区画

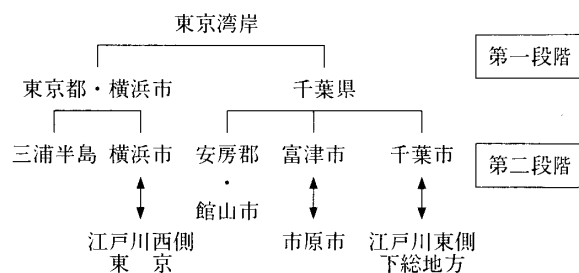


表 1

第二段階 2：(4)三浦半島、(5)横浜 ←→ 東京（江戸川まで）。

1 どくだみ

標準語形「どくだみ」に対する代表的方言形 (1)《どくだめ》、(2)《じごくそば》、(3)《じゅーわく》を基準にすすめる。東京湾岸を六つの分布地図に分割する。

1) 分布地図 1-1 / 横浜市の北端から南下し三浦半島までの範囲。(p.90地図参照)

(1)どくだめ / (237地点) [分布地図 1-1 の範囲で「どくだめ」が237地点ある]

(2)じごくそば類 / なし [分布地図 1-1 の範囲で「じごくそば類」は皆無 = 0]

(3)じゅーわく類 / (15) [分布地図 1-1 の範囲で「じゅーわく類」が15地点ある]

上記の(1)・(2)・(3)は分布地図 1-1 ~ 5 のすべてに地点数を示す。それ以外に、地図化していないが、高い地点数を獲得した語は地点数を付けて紹介する。地点数が9以下のものは扱わない。しかし、10以上の地点数をえた語はみな紹介するわけではない。

(1)・(2)・(3)は地図化するが、その他の語は、地図化はしないが、地点数は紹介する。

なぜすべてを地図化しないのか？すべてを地図化すると、(1)・(2)・(3)の分布位置や獲得数を瞬時に感じ取ることが困難になるからだ。地図化しないが、全獲得数の中で

どのくらいの位置にあるか知ることができるから。

分布地図1-1の場合は次のようになる。
①「無回答」(14地点)、②「どくだみ」(330)等である。このように、地図化はしないが、獲得数を示した合計を最後に示す。〔344〕がそれだ。この数字に後に(1)・(2)・(3)の獲得数を加える。分布地図1-1の場合は【596】となる。

以上、例として「分布地図1-1」の解説をした。次に紹介する。

A1) 分布地図1-1 / 横浜市の北端から南下し

三浦半島までの範囲。無記入の地点数は

①「無回答」(14地点)、②「どくだみ」(330)。〔344〕【596】。(p.90地図参照)

(1)どくだめ / (237地点)

(2)じごくそば類 / なし

(3)じゅーわく類 / (15)

2) 分布地図1-2 / 千葉県富津市 ←→ 木更津市の範囲。無記入の地点数は

①「無回答」(19地点)、②「どくだみ」(302)、③「どくだに」(35)、④「どくだね」(35)等である。〔391〕【421】(p.91地図参照)

(1)どくだめ / (30地点)

(2)じごくそば類 / なし

(3)じゅーわく類 / なし

3) 分布地図1-3 / 千葉県袖ヶ浦市 ←→ 千葉市。無記入の地点数は

①「無回答」(8地点)、②「どくだみ」(298)、③「どくだね」(15)、④「どくだに」(10)等である。〔331〕【460】(p.92地図参照)

(1)どくだめ / (19地点)

(2)じごくそば類 / (109)

(3)じゅーわく類 / じゅーやく (1)

4) 分布地図1-4 / 江戸川の東西(東京都・千

葉県)。無記入の地点数は①「無回答」(21地点)、②「どくだみ」(226)等である。〔247〕

【295】(p.93地図参照)

(1)どくだめ / (14地点)

(2)じごくそば類 / (33)

(3)じゅーわく類 / じゅーやく (1)

5) 分布地図1-5 / 荒川(東京都) ←→ 多摩

川(東京都・神奈川県)。無記入の地点数は主として①「無回答」(15地点)、②「どくだみ」(126)等である。〔141〕【169】〔地図

1-1 ←→ 地図1-5【1941】〕(p.94地図参照)

(1)どくだめ / (10地点)

(2)じごくそば類 / なし

(3)じゅーわく類 / (18)

0) 分布地図1-6 / 房総南端(安房郡・館山市)。

無記入の地点数は①「無回答」(5地点)、②「どくだみ」(231)等である。〔236〕

【403】〔地図1-1から地図1-6までの総数【2344】〕(p.95地図参照)

(1)どくだめ / (154地点)

(2)じごくそば類 / (13)

(3)じゅーわく類 / なし

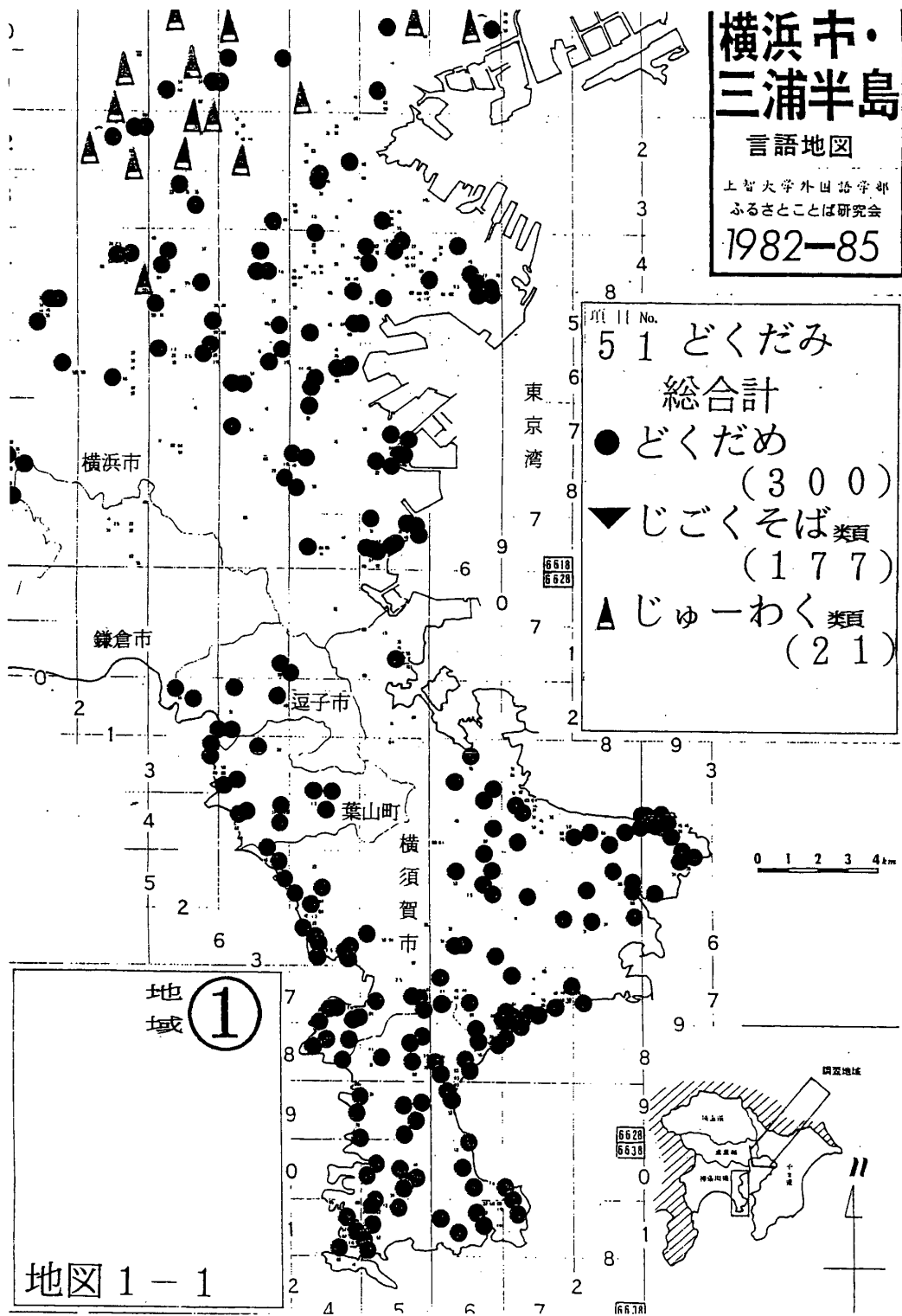
B 標準語形「どくだみ」とそれに対応する方言形のうち(1)《どくだめ》、(2)《じごくそば》類、(3)《じゅーわく》類の三方言形について地元の人から声を聞く。

1) 分布地図1-1 (=地域①) <調査期間: 1982/1983/1985> (p.90地図参照)

(1)どくだめ(237地点) / もんくなく地域①の方言形第一位。標準語形「どくだみ」(330地点)と遜色(そんしょく)ない。

¶「どくだみ」は今のことば、「どくだめ」は昔のことば(三浦市三崎町・男)同意見(横須賀市秋谷・男)

¶「どくだみ」と「どくだめ」とは同



じょうに使う (横須賀市佐原・男)

① 「どくだめ」より「どくだみ」をよく使う (藤沢市影取・男)

(2) じごくそば類 / なし

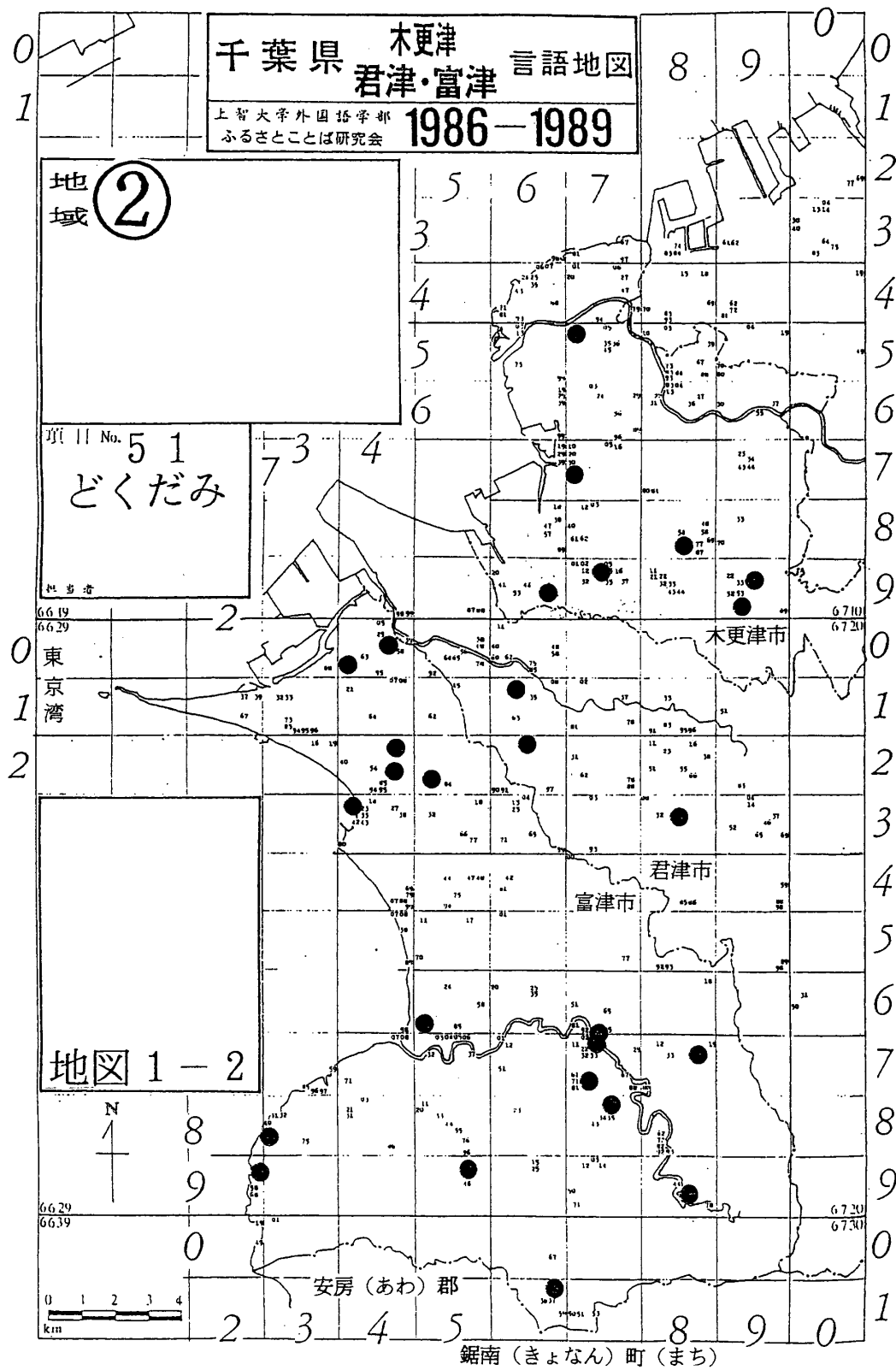
(3) じゅーわく類 / (15)

① 昔は「じゅーわく」、今は「どくだみ」

(横浜市保土ヶ谷・女)

① 「じゅーわく・どくだめ」を使う (横浜市旭区・男) [横浜市戸塚区から嫁にきた奥さんは「どくだみ」を使う]

2) 分布地図 1-2 (=地域②) <調査期間: 1986~1989> (p.91地図参照)



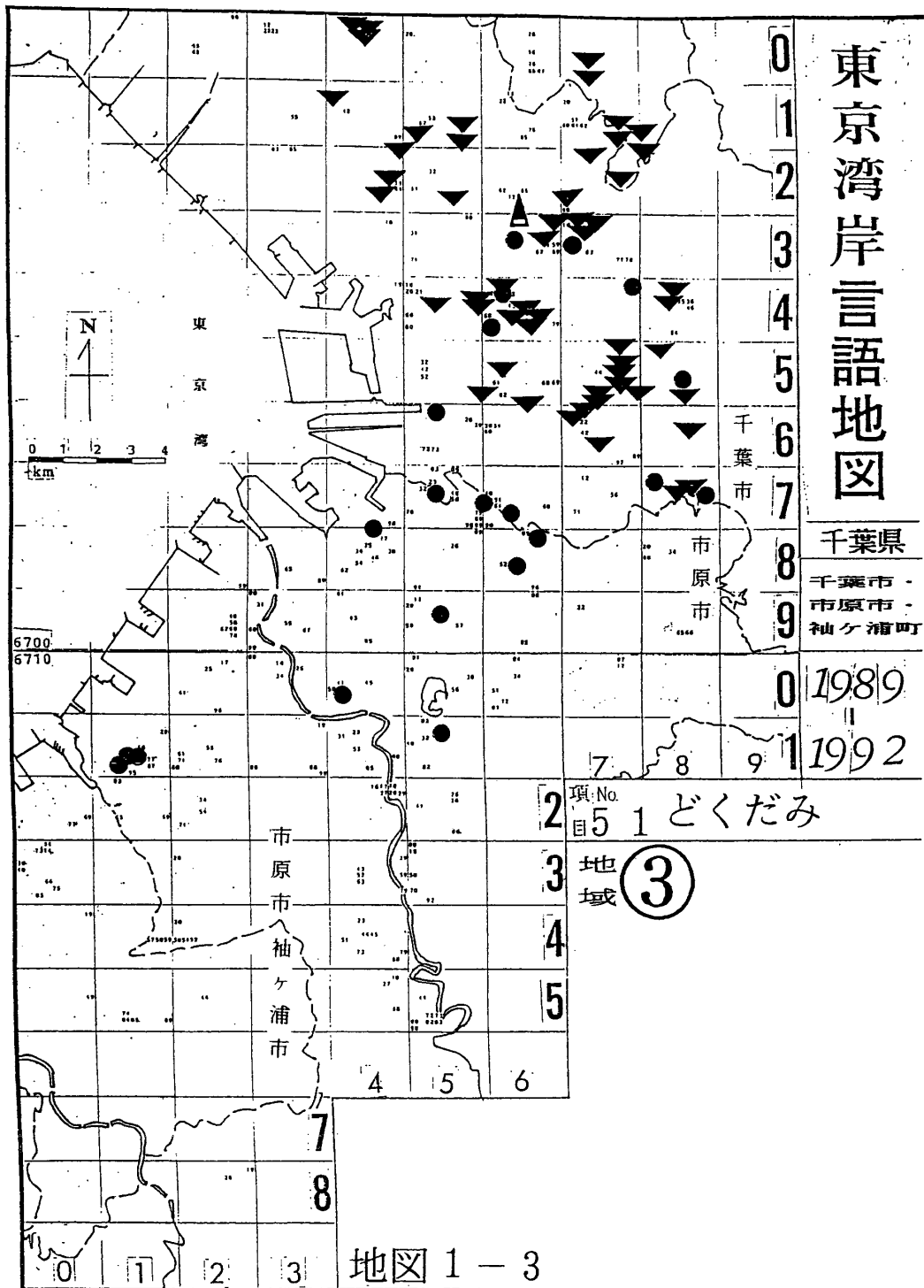
(1)どくだめ (30地点) / 分布から見ると、
残存形であることが分かる。

㊦「どくだめ」は昔、「どくだみ」は今
(富津市萩生・男)

㊦「どくだめ」は、子供のころに言っ
た (木更津市矢那・男)

(2)じごくそば類 / なし

(3)じゅーわく類 / なし



3) 分布地図 1-3 (=地域③) <調査期間：1989~1992> (p.92地図参照)

(1) どくだめ / (19地点)

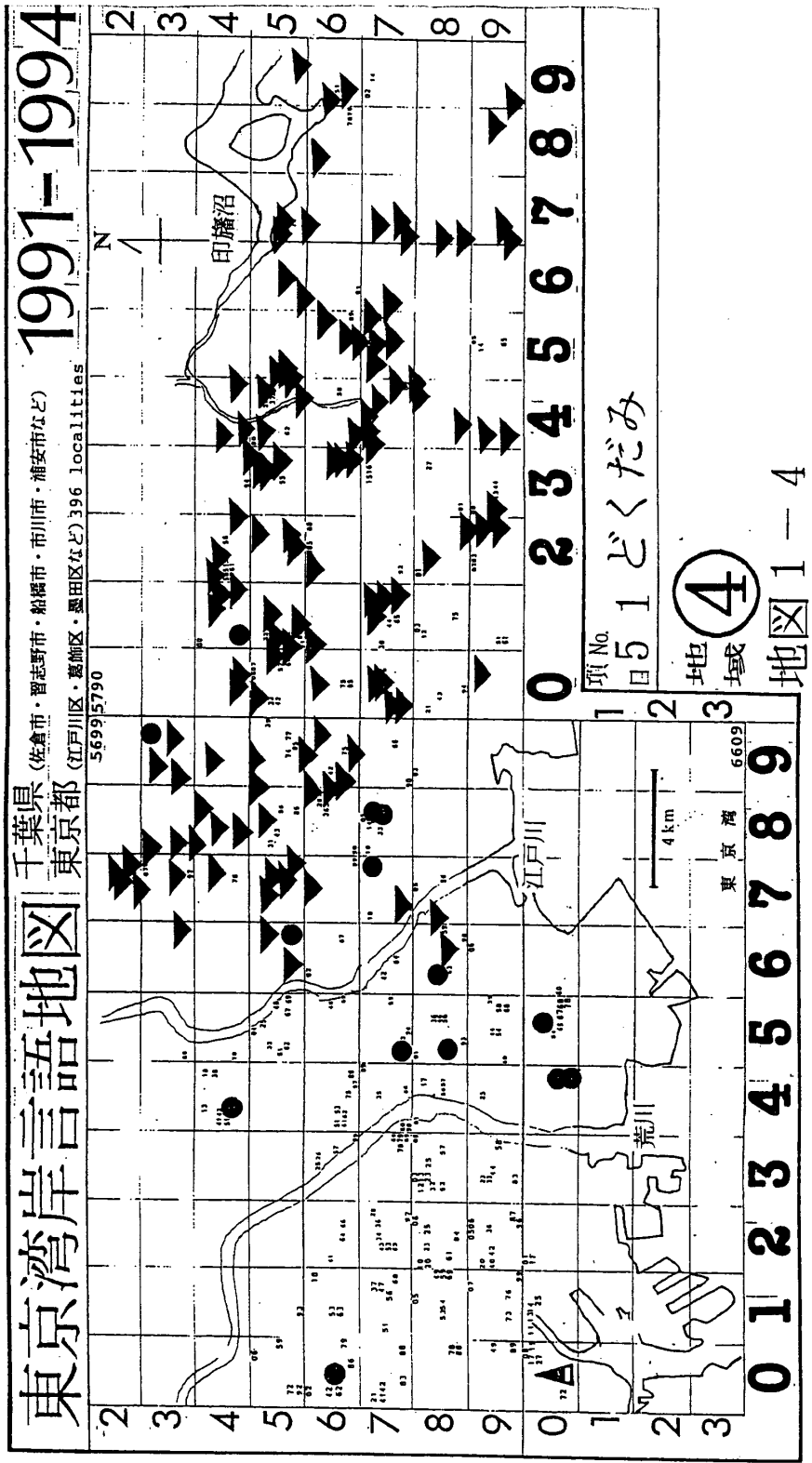
⌘ 「どくだみ」とは言うが、「どくだめ」とは言わない (市原市馬立・男)

⌘ 「どくだめ」は昔、「どくだみ」は今 (市原市大厩・男)

(2) じごくそば類 / (109)

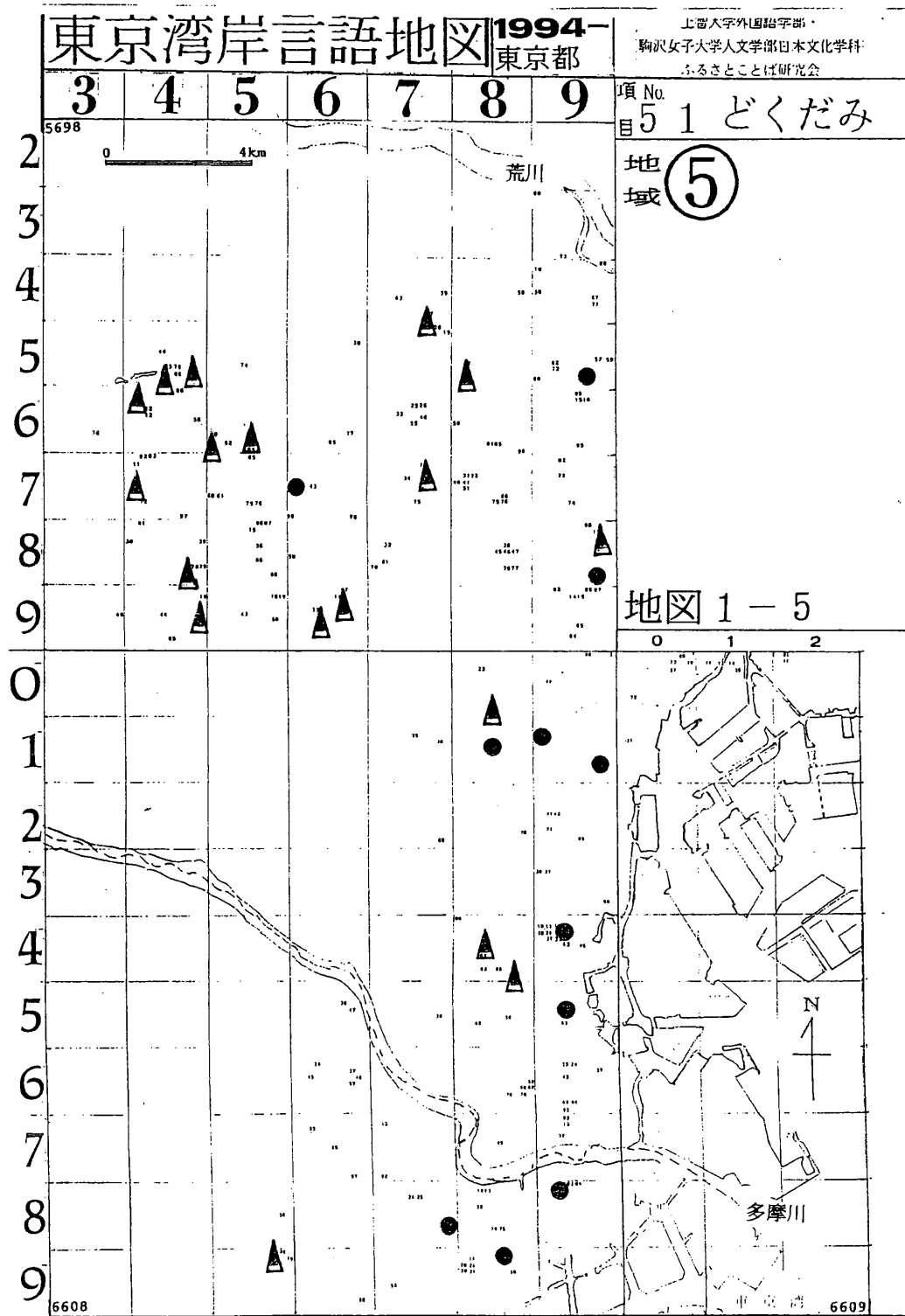
⌘ 「どくだめ」は今使われている。「じごくそば」は昔使われていた。(千葉市星久喜町・男) (千葉市大巖寺町・女)

⌘ 「どくだみ」と比べて「じゅこくそば」は昔のことば (千葉市萩台町・)



女)
 (3)じゅーわく類/じゅーやく (1)
 たしかに、分布地図のじゅーわく類が
 唯一記録されている。これには私は疑
 問をもっている。調査者の記入事項を

読み返したが、どうしても合点がい
 かない点に気がついた。インフォー
 マント自身の問題ではなく、記録しかたに
 疑問があり、今となつては、当時の記
 録者に会うということもできない。そ



ここで、私の責任で「じゅーやく」の記録は抹消すべきと判断する。

4) 分布地図 1-4 (=地域④) <調査期間: 1992~1994> (p.93地図参照)

(1) どくだめ / (14地点)

¶ 「どくだみ」(「どくだめ」に非(あ

ら)ず)は腎臓の薬(松戸市紙敷・男)

(2) じごくそば類 / (33)

¶ 「じごくそば」は、「どくだみ」より多く使われる(佐倉市井野・男)

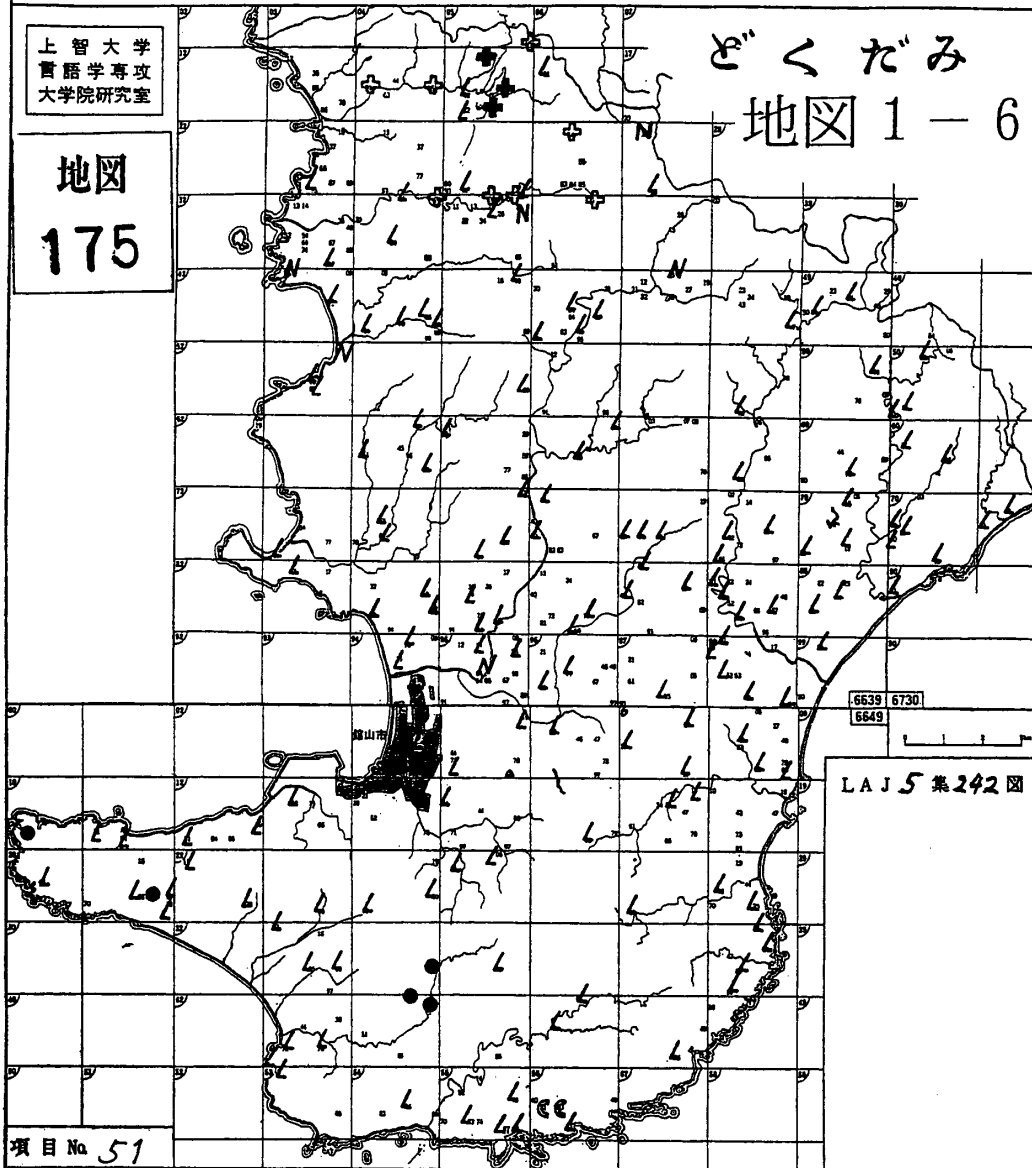
¶ 「どくだみ」と比較して「じごくそ

千葉県館山市および安房郡言語地図

上智大学
言語学専攻
大学院研究室

どくだみ
地図 1-6

地図
175



項目 No. 51

LAJ5集242図

凡例

- | | | | |
|----|------------------------|---|-------------|
| 無印 | dokudami | ⊕ | dzigokusoba |
| N | 無回答 | + | dzigosoba |
| L | { dokudame
dokutame | ● | dokudambe |
| | | ● | rokudami |

担当者 前川 善久 権

ば」は、昔のことば（佐倉市田町・男）（四街道市栗山・男）

1994～1997> (p.94地図参照)

(1)どくだめ / (10地点)

(3)じゅーわく類 / じゅーやく (1)

¶ 「どくだみ」(「どくだめ」に非(あら)ず)は腹下しに効く(豊島区南

5)分布地図 1-5 (地域⑤) <調査期間:

長崎・男)

(2)じごくそば類／なし

(3)じゅーわく類／じゅーやく (18)

¶ 蛇を半殺しにしておいて、頭の上
のせてやると、蛇が動きだした (新
宿区中落合・男)

¶ 「じゅーわく」は「どくだみ」より
古い語 (横浜鶴見区・女)

0) 分布地図 1—6 (地域⑥) <調査期間:
1973~1976> (p.95地図参照)

(1)どくだめ／ (154地点)

¶ 「どくだみ」「どくだめ」に非 (あ
ら)ず)はおできを薬で治す (灰を
つける) (川間・女)

(2)じごくそば類／ (13)

¶ 「じごくそば」は、「どくだみ」より
古い (鎗水・男)

(3)じゅーわく類／なし

II おおぼこ

分布地図 2—1 ~ 5 の説明

(1)げーろっば類

(2)おんぱっば類

(3)あんごっば

A1) 分布地図 2—1 / 無記入の地点数は①「無
回答」(77地点)、②「おおぼこ」(135地
点)、③「おんぱこ」(245)、④「おんぱく」
(103)である。(560)【563】(p.97地図参
照)

(1)げーろっば類／ (3)

(2)おんぱっば類／なし

(3)あんごっば／なし

2) 分布地図 2—2 / 無記入の地点数は主とし
て①「無回答」(72地点)、②「おおぼこ」
(63)、③「おんぱば」(14)、④「おおんぱ
っば」(11)、⑤「おんぱこ」(10)である。
(170)【396】(p.98地図参照)

(1)げーろっば類／(27) } げーろのおん

(2)おんぱっば類／(149) } ぱっば(20)

(3)あんごっば／ (30)

3) 分布地図 2—3 / 無記入の地点数は①「無
回答」(27地点)、②「おおぼこ」(83)、③
「がいろっば」(12)、④「がえろっば」
(12)、⑤「かえるっば」(11)である。(145)
【475】(p.99地図参照)

(1)げーろっば類／ (298)

(2)おんぱっば類／ (32)

(3)あんごっば／なし

4) 分布地図 2—4 / 無記入の地点数は①「無
回答」(88地点)、②「おおぼこ」(84)、③
「おんぱこ」(58)である。(230)【280】
(p.100地図参照)

(1)げーろっば類／ (50)

(2)おんぱっば類／なし

(3)あんごっば／なし

5) 分布地図 2—5 / 無記入の地点数は①「無
回答」(50地点)、②「おおぼこ」(70)、③
「おんぱこ」(29)である。(149)【151】〔地
図 2—1 から地図 2—5 までの総数
【1865】〕(p.101地図参照)

(1)げーろっば類／ (2)

(2)おんぱっば類／なし

(3)あんごっば／なし

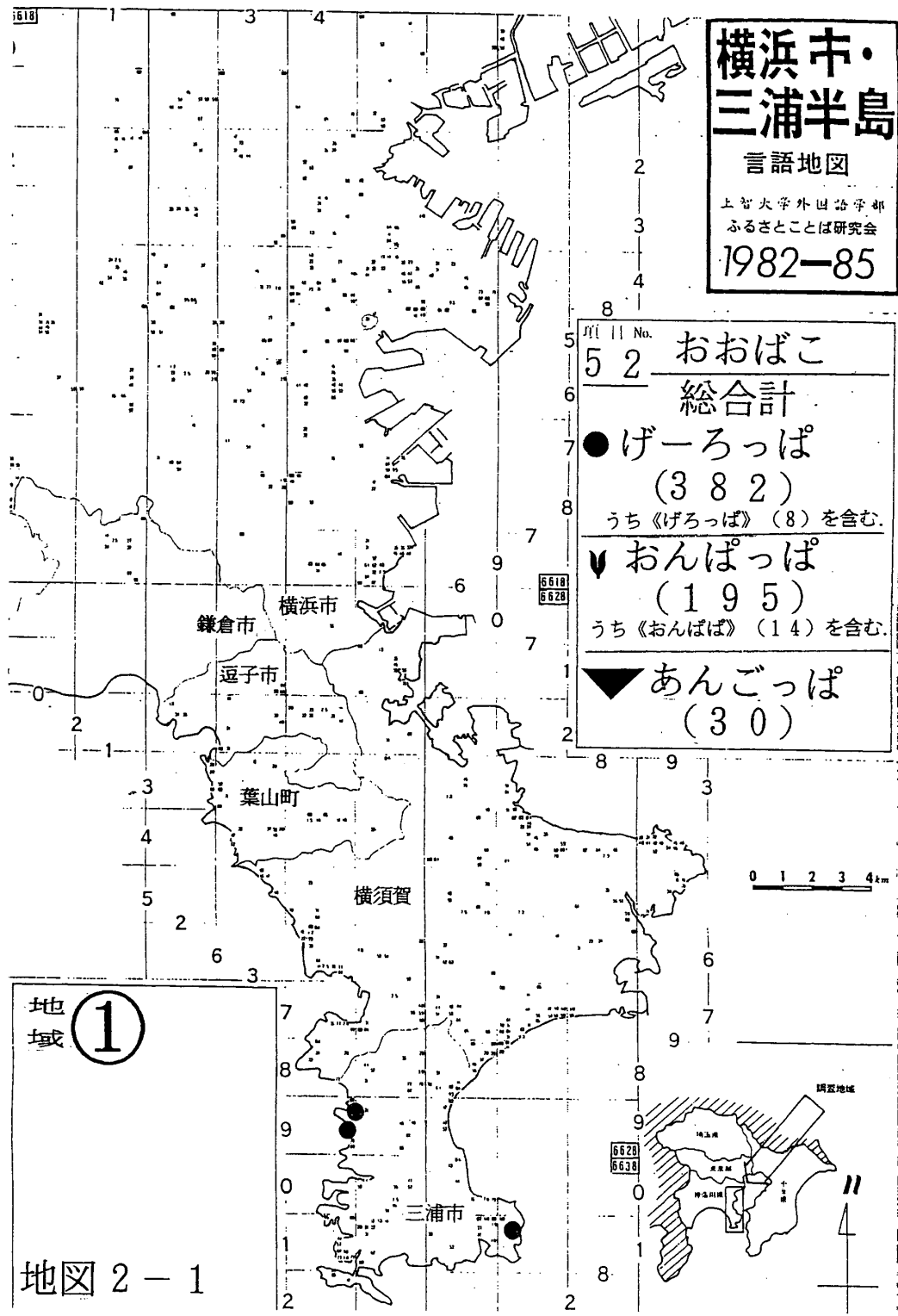
0) 分布地図 2—6 (地域⑥) <調査期間:
1973~1976> (p.102地図参照)

(1)げーろっば類 }
(2)おんぱっば類 } なし
(3)あんごっば }

B 地元の人からの声を聞く。

1) 分布地図 2—1 (地域①) <1982/1983/1985>
(p.97地図参照)

(1)げーろっば類 }
(2)おんぱっば類 } なし
(3)あんごっば }



2) 分布地図 2-2 (地域②) <1986-1989>
(p.98地図参照)

(1) げーろっぱ類

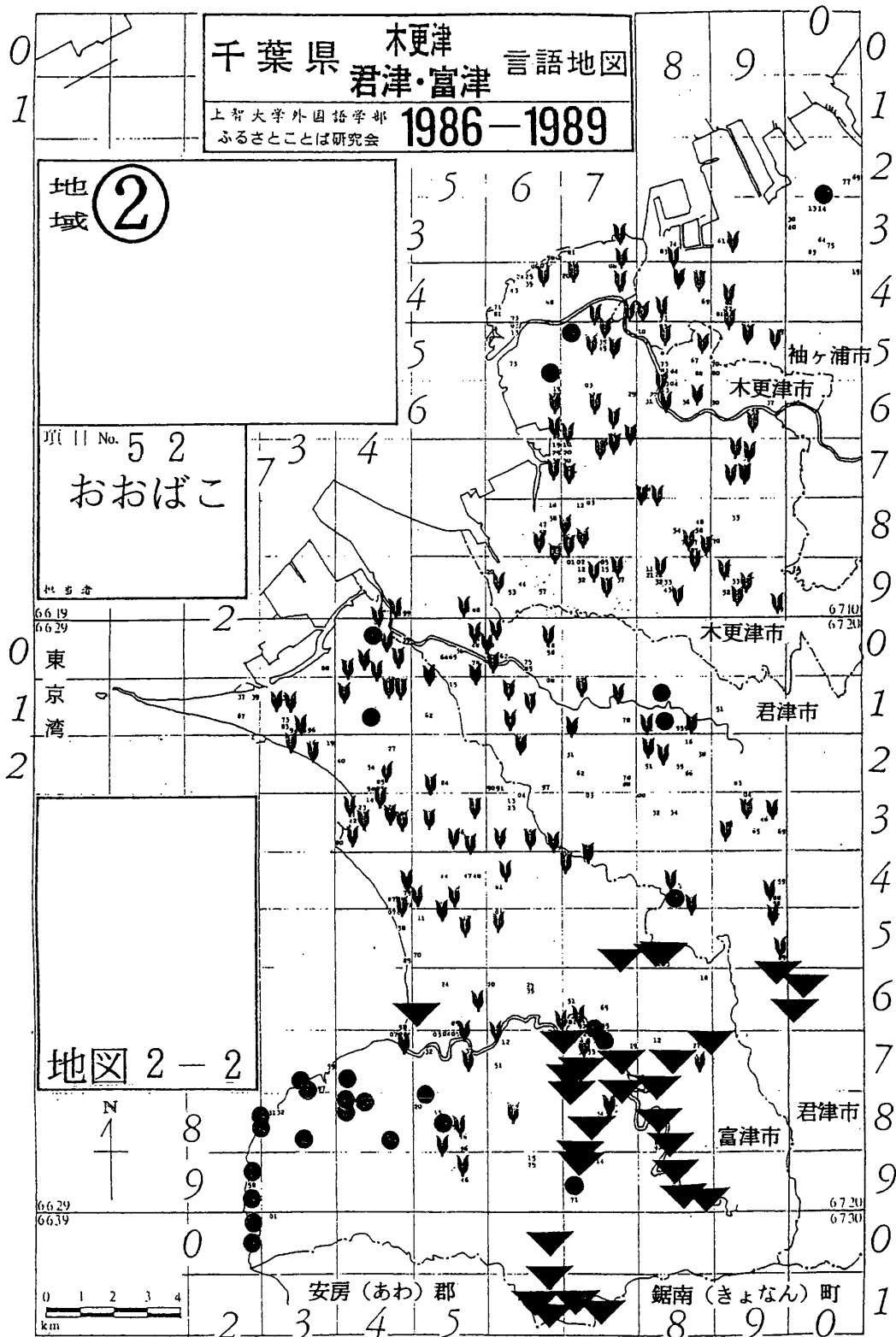
¶ 「おんぱっぱ」よりも古い (市原市 姉ヶ崎・女)

¶ 「おおばこ」とは同じくらいの頻度
で使う (富津市竹岡・男)

(2) おんぱっぱ類

¶ 昔も今も言う (木更津市矢那・男)

¶ 「おおばこ・おんぱこ」に比べて、



もっとも自然に頻繁に使う (木更津市中里・男)

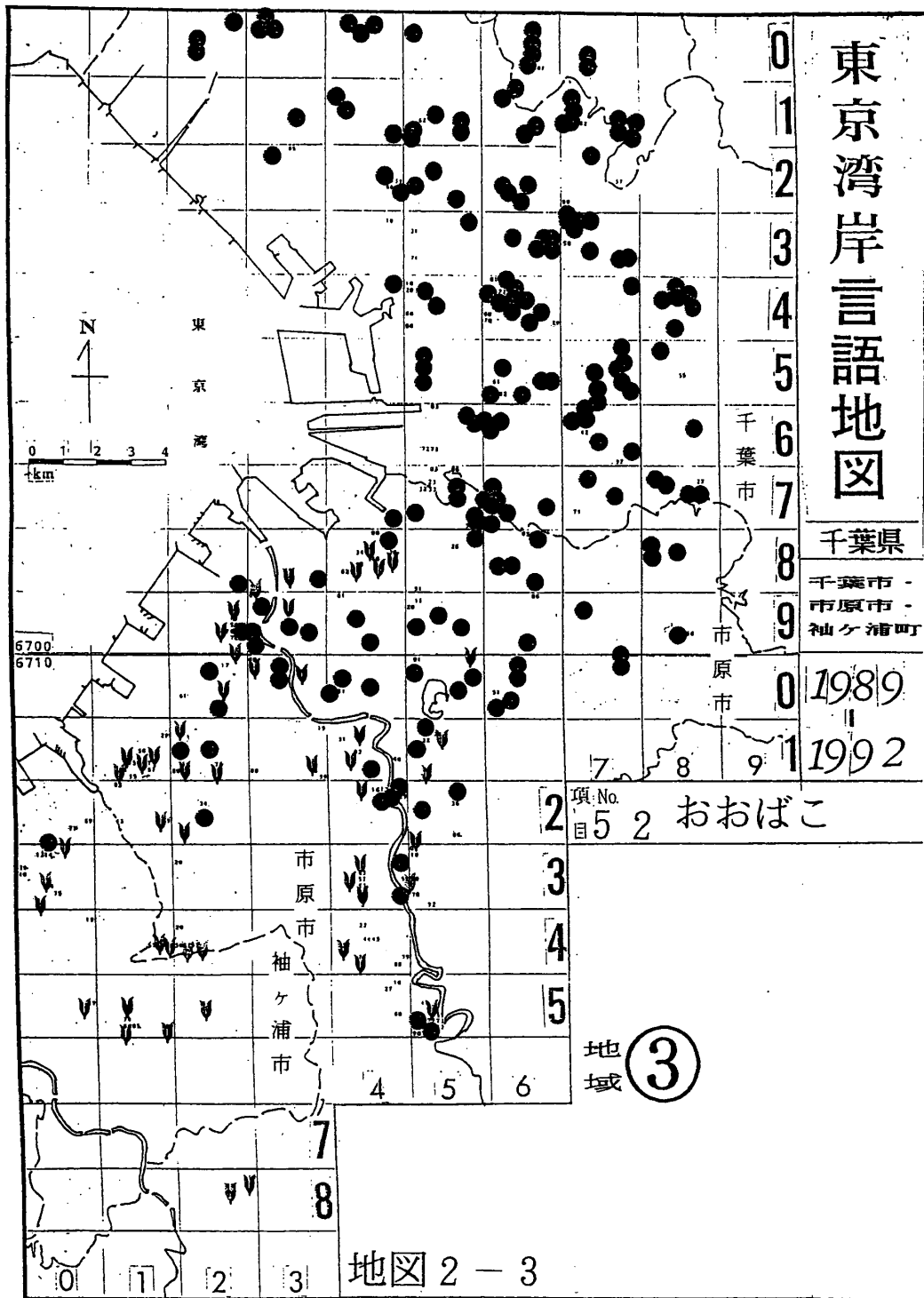
♣ 女の子がよく使った (袖ヶ浦町久保田・男)

(3) げーろおんぱっぱ ((1)+(2))

♣ 「げーろおんぱっぱ」は「おおばこ」より古くから使っていた (富津市関尻・男)

(4) あんごっぱ

♣ ぐったり死にかかって蛙をこの葉っ



ばで包むようにすると、元気がでる
という (富津市豊岡・男)

3) 分布地図 2-3 (地域③) <1989-1992>
(p.99地図参照)

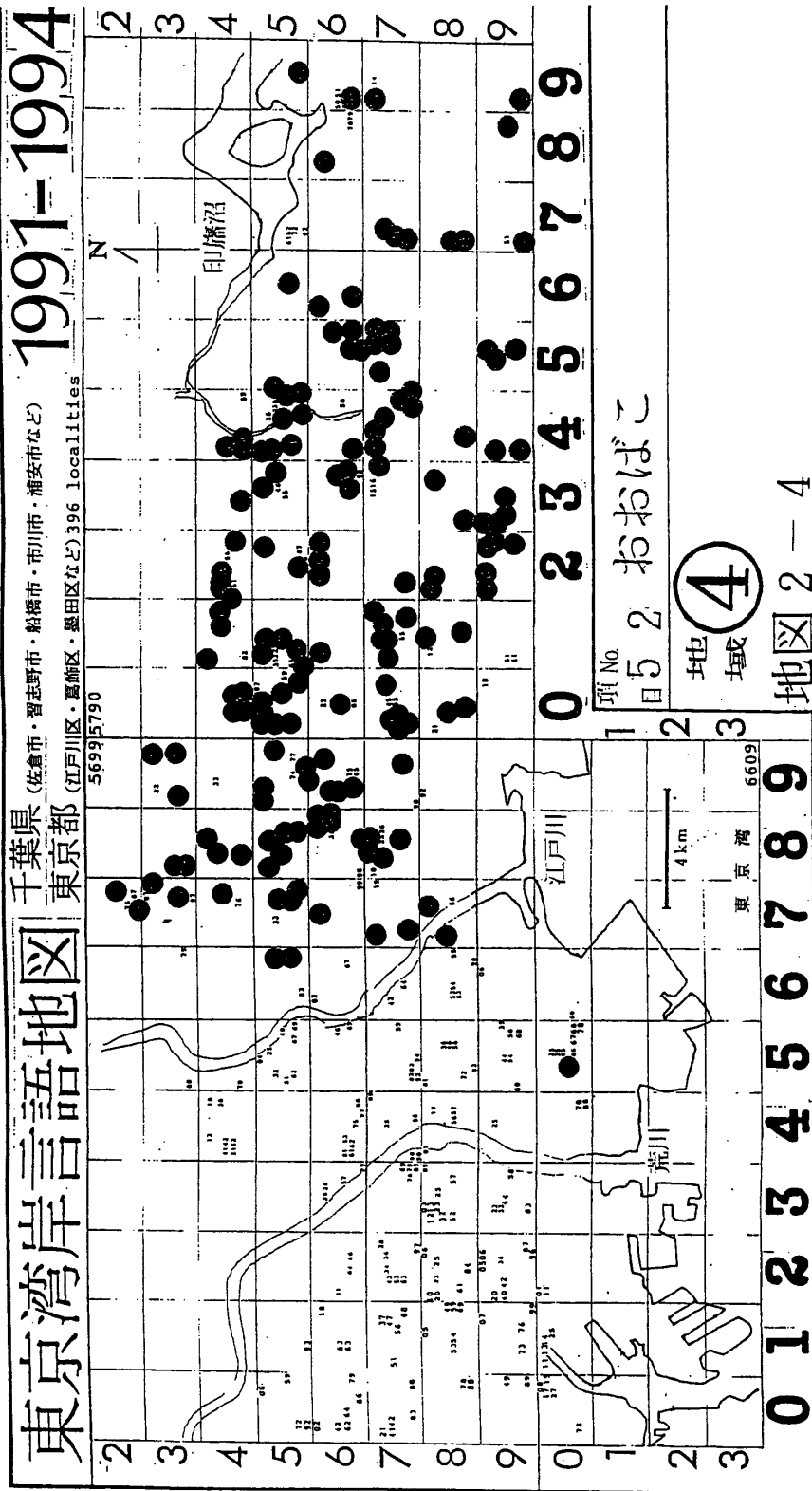
(1) げーろっば類

¶ 「かえろっば・げーろっば」が「お
おばこ」と違う点は、子供の時に使

ったことばである点だ (市原市新
生・男)

¶ 「おおばこ」と比較して、「げーろっ
ば」は、古い言い方だ (市原市佐是・
男)

¶ 「げーろっば」とは言う。しかし、
「おおばこ」とは言わない (市原市



能満・男)

①「げーろっぱ」は葉の大きさが、「お
おばこ」の葉より小さい (市原市山
田橋・男)

①「げーろっぱ」は「おおばこ」より

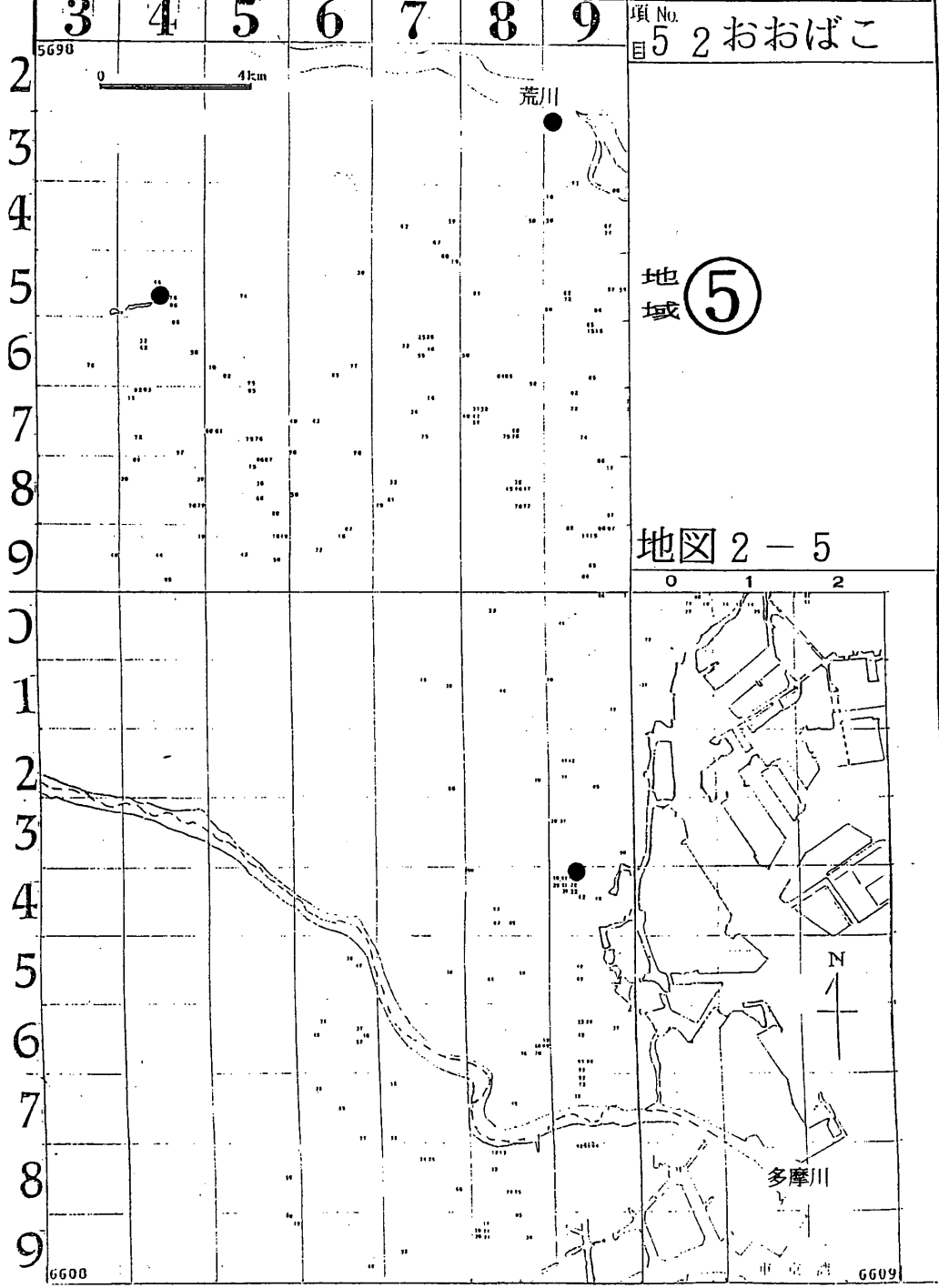
昔だ (千葉市源町・男)

(2)おんぱっぱ類

①「おんぱっぱ」と「げーろっぱ」の
うち、兎 (うさぎ) に食べさせたの
は、「おんぱっぱ」だった (市原市松

東京湾岸言語地図 1994-
東京都

上智大学外国語学部・
駒沢女子大学人文学部日本文化学科
ふるさとことば研究会



項 No. 5
目 2 おおばこ

地域 ⑤

地図 2-5

ケ島・男)

¶ 「おんぱっぱ」は、「おんばこ」と違
って、百姓の人が多く使う (市原市
糸久・男)

(3) あんごっぱ

4) 分布地図 2-4 (地域④) <1992-1994>

(p.100地図参照)

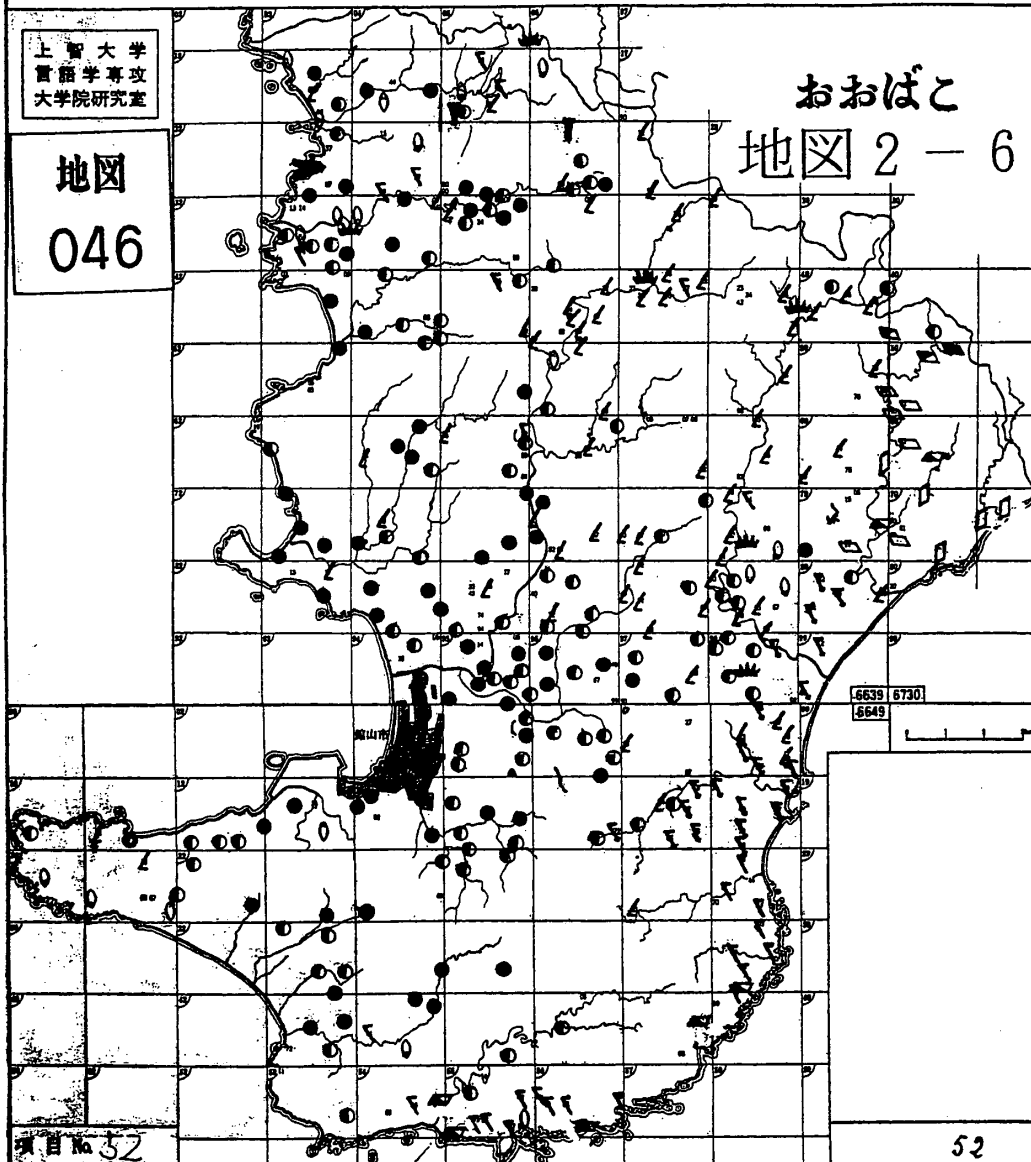
(1) げーろっぱ

¶ 「げーろっぱ」がほとんど使われる
(鎌ヶ谷市初富・男)

¶ 普通 (松戸市串崎新田・男)

¶ 百姓のことば (鎌ヶ谷市中沢・男)

千葉県館山市および安房郡言語地図



上智大学
言語学専攻
大学院研究室

地図
046

おおばこ
地図 2-6

項目 No. 52

52

凡例

- | | | |
|---|-------------|-------------|
| ♣ ho:zuki (ppa) | ● ho:zeppa | □ hu:zuippa |
| ∠ ho:zui ^{ppa} _{gusa} | ● ho:deppa | ○ hu:zuippa |
| ✱ ho:zippa | ● ho:reppa | ▷ hu:zeppa |
| ■ ho:zuippa | ➤ ke:ruippa | ◁ hu:jippa |
| | ▼ angoppa | ◀ hu:deppa |
| | ○ o:bako | 無印:無回答 |

担当者 永田高志

¶ 「げーろっぱ」とは言わない (習志野市鷺沼・男)

¶ 1子供の頃こう呼んだ。2今言っても通じないだろう (船橋市藤原・男)

¶ 「げーろっぱ」と「おんばこ」は両方とも使う。しかし「げーろっぱ」のほうが程度が低い言い方 (市川市田尻・男)

¶ この草から汁をだして飲ますと癩癩
(てんかん) に効く (北区岩淵町・男)

(2)おんぱっぱ

(3)あんごっぱ

(4)おんばこ

¶ 「おおばこ」よりも「おんばこ」の
ほうを言う (江東区亀戸・男)

¶ ひっぱり合って遊んだ (江戸川区中
葛西・男)

5) 分布地図 2-5 (地域⑤) <1994-1997>

(p.101地図参照)

(1)げーろっぱ類

(2)おんぱっぱ類

(3)あんごっぱ

(4)おんばこ

¶ 「おんばこ」(会話)。「おーばこ」(正
式) (渋谷区恵比寿南・男)

¶ 聞かない (横浜市鶴見区・男)

0) 分布地図 2-6 (地域⑥) <調査期間:
1973-1976> (p.102地図参照)

(1)げーろっぱ類 }
(2)おんぱっぱ類 } なし
(3)あんごっぱ }

(4)ほーでっぱ系

¶ 下剤になる/葉を茹(ゆ)でて食べ
る/咳(せき)、下痢には、根を煎じ
る (安房郡・館山市全域)

(5)ほーぜっぱ

¶ 薬用。塩で揉む/塩漬けにして「ほ
ーずき」にした/塩漬けにして、ホ
オズキのようにする女の遊び/塩で
揉んでならずと、ホオズキのような
音がする/子供の頃。塩漬けにして、
しゃぶる/血止めになる/葉を塩で
柔らかくして鳴らす/実が赤くなる
/ホオズキのように、口で吹いた/

葉を揉んで、口の中に入れて笛のか
わりにする/食べられる/薬/塩に
つけて糸で縛ってホオズキにした。

(安房郡・館山市全域)

(6)ほーずいっぱ

¶ 「ほーずいっぱ」は「おおばこ」よ
り昔で、古い言い方。(安房郡/男女)

¶ ホーズキの葉。塩で葉を揉む。そう
して息を吹き込むと丸く膨(ふく)
れる/葉を塩でおして食べられる/
塩につけてしゃぶった/ホオズキの
ようにして遊ぶ。(安房郡・館山市全
域)

川方言区画論は本来、静的観点であるよりはむ
しろ動的観点である。——方言地図の読み方

● 地図 1-1 ~ 6 [標準語形どくだみ]

同じ横浜市・三浦半島だが、語によって(例・
地図 1-1)、広い領域を占める場合もあれば、
他の語によれば(例・地図 2-1)ごく狭い領域
しか占めていない場合もある。その領域の差に
意味がある。これは静的観点だ。

(地図 1-1 / 地域①) の北端に「じゅーわく
類」が集まっている。そこだけを見ているのが
静的観点だ。そうではなくて、北端の「じゅー
わく類」が「じゅーわく類」全体の動きの中で
どういう役目を果しているのかを考える。これ
が動的観点だ。

(地図 1-1 / 地域①) の北端に集まっている
「じゅーわく類」のさらに北(地図 1-5 / 地域
⑤) ではどういう動きかを知るべきだ。地図⑤
の左上の隅に小さく5698と書いてある枠では13
ばかりの「じゅーわく類」が集まっている。そ
れ以外は散在している程度である。さらに、地
域⑤と隣合わせの地続きである(地図 1-4 /
地域④) には「じゅーわく類」があるかいなか
を確かめる。すると一番左の下の一つだけ「じ
ゅーわく類」のあることが分かる。その「じゅ

一わく類」は地域⑤の「じゅーわく類」に属するものとも考えられる。仲間が一つ増えた。このように調査をした地域にもう「じゅーわく類」がないかを確かめる。

その過程で、「じゅーわく類」の一つが(地図1-3/地域③)の上部に見える。実は私は一瞬、「おかしい」とおもう。信憑性を疑う。なぜなのか説明する。資料の扱いで大切なことだ。p.93~94でも触れたが、再度述べる。

(1)国立国語研究所『日本語地図』の中には、「おおぼこ」はないが、「どくだみ」の全国の方言地図がある。それをみると、詳細は省略するが、西日本には瀬戸内海・太平洋側を中心に「じゅーわく類」が占めている。そして北関東から東北は「じごくそば類」である。千葉県は「じごくそば類」派で、東京は「じゅーわく類」派だ。

しかし、こういう事実があっても、それだけで「じごくそば類」のなかに「じゅーわく類」の一つくらいは入り込むことがあるかもしれない。だから、わたしは、これだけで、その「じゅーわく類」を否定しようとしているのではない。もっと重要なことがある。

(2)方言調査をするとき必ず、方言に関するだけでなく、調査票の表紙に書き込まなければならない事項がある。氏名とか、住所とか、生年月日とか。そのほかにこういう事項がある。それは、インフォーマント(=調査者)について記録しなければならない欄がある。インフォーマントを選ぶとき一番だいじなことは、われわれの調査では住所に関して、今住んでいる家で生まれ、それ以後ずっと現在の家で住んでいる方を選ぶことにしている。そういうことをきちんとしておかないと、正しい方言調査ができない。だから、その部分を確認するために、私が保管している「調査票の表紙」を読み返した。そう

すると、四国生まれ、と書いてある。現住所の生まれでない人には、気の毒だがインフォーマントにお願いできないのだ。この間違いはインフォーマントの方の手落ちではまったくない。調査員の間違いである。ひいては指導者の私の責任だ。

簡単に事情を話したが、けっきょくそういうことで、(地図1-3/地域③)の上部に見える一つ「じゅーわく類」には問題があるので、正式な資料とは認められない。これは学問の良心に関わることだ。

話を進めましょう。

さて、「じゅーわく類」の分布は(地図1-1/地域①)・(地図1-5/地域⑤)に限定されていた。しかし、多少集まっているものと、散在しているものがあった。このような分布は「だんだん力が弱って、仲間が脱落していく」ケースを示すのが多い。

「どくだめ」は地域①では三浦半島の隅々まで行き渡っている。ということは相当以前から地域の全域を制していた。しかし、今では「どくだみ」に脱落していく人もいます。地域⑤は地域①よりもさらに戦場での生き残りがすくなくなっている場面だ。さらに地域④の江戸川以西も「どくだめ」を「どくだみ」という標準語に変えていく姿だ。

しかし方言が別な方言に交替していくにしてもそう簡単にすぐ交替するわけではない。子供のことはお父さんの言葉とそう違わない。しかし、お祖父さんと話をするとだいぶ違いを感じるのではないか。もしそうだとすれば、ことばの交替には三代(祖父→父→私)はかかるのではないか。人によって違いがあるのは当然だが。

このように生まれて天国へ行くまでには、何度か言葉を代える。しかし一般的に、現在使っていることばの前のべつなことばは、今では使

わなくても、頭の中に残っているのが普通だ。そういうことがあると、一人一人に「ことばの層」というものが生まれる。人間の頭のなかではふつう「ことばの層」ができる。一番上の層にあるのが「どくだみ」だが、それ以下の層は人によって異なるのがふつうだ。

こんな経験がある。横浜市旭区の明治39年生まれの男性が日常使うのは《じゅーわく》と《どくだめ》。でも、その奥さんが日常使うのは《どくだみ》だった。また横浜市保土ヶ谷区の明治39年生まれの奥様は「昔は《じゅーわく》といったが、いまじゃ《どくだみ》と。横浜市南区の大正5年生まれの奥様は「《どくだみ》でも《どくだめ》でも使う。が《どくだめ》はたまにしか使わない」と。人の言葉も人によって違うものだ。みんなが同じことばを使っているわけではない。それぞれ頭の引出しの中から、必要に応じて出すのだ。

《どくだめ》は東京湾をぐるりとまわると、《どくだめ》が濃い分布をもっている所もあり、薄い分布もある。が同じ一つの東京湾岸方言とでも名付ける方言区画にしたい。このケースには異議はない。

地域③・同④（特に前者）をみると、江戸川以東に、さらに千葉県までくるとそこで《じごくそば》が南下してくるようにも見える。しかも、千葉市を越え市原市に踏み込むかとおもいきや、ピタリと止まっている。《どくだめ》の動きはどうか。今後も、現在のまま止まっているのかいなかは分からない。このような時、この地域に長く住んでいるに尋ねればいっばつである。現に、次に示すように、「じごくそば」類が《どくだめ》より古いものだということが判明する。

千葉市星久喜町の男・大正4年生まれの「《どくだめ》は今使われている。《じごくそば》は昔使われた」という表現だが、主旨はよく分かる。

これと同じ趣旨の人は他に——千葉市大巖寺町・女・明治43／千葉市萩台町・女・大正12／千葉市源町・男・昭和1／千葉市作草部町・女・昭和5／千葉市小倉町・男・昭和8、等が確認されている。

残りの分布地図1-6（地域⑥）に触れる。これは、1973-1976年の調査期間に収集したものを1984年で『千葉県館山市および安房郡言語地図』と題してW. A. Grootaers先生と私の編著書として公刊したものからとったものだ。これは標題のとおり房総半島の最南端、安房郡・館山市を対象にしたものだ。われわれの『東京湾岸言語地図』に、房総半島最南端、を特に計画に入れず、『千葉県館山市…』の中の分布地図を使うことにした。

この地図を見ればわかるように、地図化しなかったものの中には「どくだみ」（231）がある。地図化したものは、(1)どくだめ／（154地点）、(2)じごくそば類／（13）、(3)じゅーわく類／などであった。この分布地図のなかで言及しなければならぬことが二つある。

(1)ここでも《どくだめ》が大勢を占めていることだ。これで、東京湾岸にはすべて《どくだめ》が分布していることが分かった。しかし特に分布の密度が高いのは、横浜市・三浦半島（地図1-1（地域①））とこの安房郡・館山市（地図1-6（地域⑥））とである。共通することは「半島はことばを溜（た）める」ということだ。ただ気になるのは、この調査が1973-1976で、『東京湾岸言語地図』（1982-1997）とすこし時間の差があることだ。注意が必要だ。

(2)もう一つの儲（もう）け物は、安房郡の最北端である鋸南町（きょなんまち）の《じごくそば》の存在だ。これまでの調査では、《じごくそば》類の分布の最南端は、千葉市であった。隣の市原市以南には一つもなく、ただ《ど

くだめ》が散在していた(地図1-3~4(地域③~④))。しかし、この発見(地図1-6(地域⑥))で《じごくそば》類は市原市←→富津市のあいだにも、かつては分布していた可能性が高くなった、ということだ。この発見は意義のあるものと考えられる。

以上で「どくだめ」類については終わる。p.88の表1の方言区画の図のなかで、三浦半島を独立させているが、その根拠を示すいい実例が今までに出てこなかったと思う。別の調査項目をみればあると思う。

次は「おおばこ」類である。

●地図2-1~6を中心に

p.96(左欄)のA1)で52おおばこ/分布地図2-1(地域①)の次に「無記入」とあるのは、地図の上を符号化していない、ということ。その次にすぐ①「無回答」(77地点)、②「おおばこ」(135)、③「おんばこ」(245)、④「おんばく」(103)、とある(地域①とただの①は無関係だから注意)。①~④は地図化はしないが、地点の総数は①77+②135+③245+④103=(560)、となり、560地点は地図化しないが、数を示しておけば、分布状態がだいたい想像がつく。

地図化する項目は(1)げーろっば類、(2)おんばっば類、(3)あんごっばで、それぞれの地図化する地点数を示す。地域①の場合、順番に3、0、0、となる。こうして、さきほどの無記入の560地点+地図化する3地点=【563】だということを示す。他の地域も同様の読みかた。

○標準語形「おおばこ」、方言形「げーろっば」類、「おんばっば」類、「あんごっば」について：

地図2-1(地域①)ではわずか3地点あるのみで、「おんばっば」類、も「あんごっば」も現れない。「げーろっば」は全体的には、この三方言形の中でもっとも地点数が多い語である。こ

の地域の北側が地図2-5(地域⑤)だ。その地域もまたわずか3地点のみだ。地図2-5の東側は地図2-4だ。江戸川以東はたくさんの「げーろっば」があるが、江戸川以西はわずか2地点だ。つまり、東京都における「げーろっば」の地点数は4地点、——北区、練馬区、品川区、江戸川区——(江戸川の東京側で、市川市があるが、それはもちろん千葉県に勘定した)。三浦市における地点数は3地点の計8地点である。たった8地点にしか残っていない。その原因は標準語形「おおばこ」の影響である。その結果の残存形になった。

ここで私たちの目的である「方言区画」に関連することがある。言語は変化するもの。その変化のしかたはいろいろある。だから、一度「方言区画」を立てても、変化していくものだと考えるのが正しい。これに関連して、次のことにも注意しておくこと。

- (1)「方言区画」をたてる材料は方言だが、方言だからと言って、標準語にふれてはいけないということはない。
- (2)一つあるはいくつかの特徴だけで決定するのだと窮屈(きゅうくつ)に考える必要はない。
- (3)他の地域と共通する特徴も区画を立てる材料に役立つ。いろいろな区画が可能だということは、区画を立てる人の見方の違いによるものだ。見方の正・誤ではない。
- (4)一度区画を立てたら、もうそれに手を加えてはいけないと考えることだ。

○地図2-2~3(地域②・③)参照。富津市を北に向かって出発するとすぐ海岸に「げーろっば」が16余りの地点に住んでいる。しかしそこを過ぎると時々「げーろっば」が見えるという程度のものだ。木更津を過ぎ市原市にふみ入ると養老川を横切ろうとすると、突然「げーろっば」が集団で来る。進めど進めど「げーろっば」

上でみてきた地図2-1~5-4の様子とは、うってちがった風景だった。おなじ「げーろっば」とはとても思えなかった。これまでの様子に従えば、東京湾岸には全域に「げーろっば」が生存していたことは固い。

「げーろっば」は東京都←→横浜市←→三浦市地帯では滅びた。しかし逆に、千葉市←→江戸川以東の下総では今なお健在である。何がそうさせたのか？ その原因は標準語の動きの違いだ。だが、東京湾の西側（東京側）と、東側（千葉市を含む下総）との「げーろっば」の鮮明な対照が事実でないとは誰も言えない。

○地図2-2（地域②）の「あんごっば」の動きも見逃せない。この「あんごっば」は富津市の湊川（みなとがわ）の上流から伝播したものだと考えられる。その根拠は、「あんご」という名称は太平洋側に限り（安房郡←→勝浦・大多喜ぐらいの範囲）、地域②の「あんごっば」は夷隅（いすみ）郡から湊（みなと）川沿いに下流に移った（学習院大・故徳川宗賢先生指導・報告書に拠る）。因みに、学習院大の報告書によれば「あんごっば」には「おおばこ」の意味と「どくだみ」の意味が人によって違う。われわれの「あんごっば」は、「おおばこ」の意味だけである。

○地図2-6（地域⑥）は、いかに安房郡・館山が他の地域（＝地図2-1~5（地域①~⑤））と比べて様相が異なるということが分かる。そのほとんどが「ほーずきの葉」という意味の語形に集約されている（II おおばこBの0）分布地図2-6（地域⑥）を参照）からだ。p.103（左）
○方言区画をうちたてる過程で時に逡巡（しゅんじゅん）するときがある――

(1)項目51「どくだみ」では、《どくだめ》が〔富津市←→市原市〕の範囲で分布し、千葉市に入ると《どくだめ》に替わって《じごくそば》が江戸川以東まで分布している。こういう現象

をみると、〔富津市←→市原市〕と〔千葉市〕の間に区画の線を走らせたくなる。

(2)項目52「おおばこ」では、《おんぱっば》が〔富津市←→市原市〕の範囲で分布して、千葉市には入らない。しかし《げーろっば》は勢いよく市原市から北へ北へと分布している例があると、どこに区画の線を走らせたらいいか困ってしまう。つまり、

①〔富津市←→袖ヶ浦〕と〔市原市←→下総〕との間に区画の線を走らせる。

②〔富津市←→市原市〕と〔千葉市←→下総〕との間に区画の線を走らせる。

この①と②のどちらにすべきか困る。このような例はたくさん出てくるはずだ。この種の解決策はことばの動きが分からないとできない。①でも②でも、勢いがどうか、を見極めることが重要だ。②の場合、《おんぱっば》がまだこれから力を示すのか、後退するのかを見極める。《げーろっば》もこれから力を示すのか、後退するのか。あるいは両者（《おんぱっば》と《げーろっば》）共にこれから力を示すのか、共にもう後退の一途なのかを見極める。そのためには、科学的な手順を経験的に作り上げる準備が必要である。そうでなければ、その場凌（しの）ぎで進行すれば、意義のないものになる。

参考・参照文献

東條操先生古希記念会（代表・岩淵悦太郎）（昭和31/1956）、『日本方言地図』、吉川弘文館、pp. 14-17。東條操「日本方言区画図・解説」林 大・他（編著）（昭和36/1961）『国語学』（国語国文学研究史大成15）三省堂 pp. 440-491。（日野資純・執筆/方言研究の歴史）
Ferdinand de Saussure (1916) Cours de Linguistique Générale, Payot.

参考資料1 回答の分類

項目番号51：どくだみ

質問文：「日陰に生える紫がかった濃い緑の草
です。悪い臭いがしますが、薬草でも
あります。白い花をつけます。／絵」

項目番号51：どくだみ

①地域〔神奈川県横浜市・三浦半島〕

- 1) 調査期間：1982/1983/1985年
- 2) 回答数：621（無回答を含む）

項目番号51【どくだみ】にたいして

- (1)[どくだみ]類と回答した音声の詳細——
どくだみ(330)、どくだんみ(5)、どく
たみ(3)、どくまみ(1)。〈4種〉
- (2)[どくだめ]類と回答した音声の詳細——
どくだめ(237)、どくだめそー(1)、ど
くだんめ(2)、どくため、とくだめ、ど
ぐだめ、どくどめ、どくだね、どくだい、
どくだも(各1)。〈10種〉
- (3)[じゅーわく]類と回答した音声の詳細
——
じゅーわく(10)、じゅわく(1)、じゅ
ーあく(3)、じゅーばく(1)。〈4種〉
- (4)無回答(14)

以上の回答以外の回答は除外した。それは
次に示すもの——

げんのしょーこ(一)(2)。以下は各1：
おーしただみ、つくし、はこべ、まごや
し。〈5種〉。

計：3類〈24種〉。無回答(14)。

項目番号51：どくだみ

②地域〔千葉県木更津市・君津市・富津市〕

- 1) 調査期間：1986-1989年
- 2) 回答数：456（無回答を含む）

項目番号51【どくだみ】にたいして

- (1)[どくだみ]類と回答した音声の詳細——

どくだみ(302)、どくだみい(4)、どく
だみえ(1)、どくだーみ(3)、どくた
み(1)、どおくだんみ(1)、どくだん
み(1)。〈7種〉

- (2)[どくだに]類と回答した音声の詳細——
どくだに(35)、どくだーに(3)、とく
だに(1)、どくだい(1)。〈4種〉

- (3)[どくだね]類と回答した音声の詳細——
どくだね(35)、どくだーね(2)。どー
だね(1)。〈3種〉

- (4)[どくだめ]類と回答した音声の詳細——
どくだめ(30)、どくだーめ(2)、どく
だむ(1)、どくだん(1)。〈4種〉

- (5)無回答(14)

以上の回答以外の回答は除外した。それは
次に示すもの——

おんぱっぱ(こ)(2)、どくだんぼ
(2)。以下は各1：くさじ、くさずっ
ぱ、くすりな、こんべ(一)とーぐさ、
せんにつそー、たむしのくすり、どくく
だし、どぐさ、どくそーっぱ、はこび、
はこべら、はながら、やくにつそー。〈15
種〉。

計：4類〈33種〉。無回答(14)。

項目番号51：どくだみ

③地域〔千葉県千葉市・市原市・袖ヶ浦町〕

- 1) 調査期間：1989-1992年
- 2) 回答数：521（無回答を含む）

項目番号51【どくだみ】にたいして

- (1)[どくだみ]類と回答した音声の詳細——
どくだみ(298)、どくだみそー(2)、ど
くだみい(1)、どくだだみ(1)、どぐ
だみ(1)、どぐたみ(1)、とくだみ
(1)、どくたみ(1)。〈8種〉

- (2)[どくだめ]類と回答した音声の詳細——

- どくだめ(19)、どくだめ(1)。〈2種〉
- (3)[どくだね]類と回答した音声の詳細——
どくだね(15)、どくだね(1)。〈2種〉
- (4)[どくだに]と回答した音声の詳細——
どくだに(10)。〈1類1種〉
- (5)[じごくそば]類と回答した音声の詳細——
じごくそば(109)、じんごくそば(1)、
じごくそっぱ(1)、じごくっぱ(1)。
しごくそば(2)。〈5種〉
- (6)[じこくそば]類と回答した音声の詳細——
じこくそば(22)、じゅこくそば(5)。
〈2種〉
- (7)[げーろっぱ]類と回答した音声の詳細——
げーろっぱ(6)、げーるっぱ(1)。〈2種〉
- (8)[げんのしょーこ]類と回答した音声の詳細——
げんのしょーこ(6)、げんのしょーこー
(1)、げんのしょ(1)、ぎんなしょー
こ(1)。〈4種〉
- (9)じゅーやく(1)。〈1類1種〉
- (10)無回答(8)。

以上の回答以外の回答は除外した。それは次に示すもの——

くせっぺー(1)、くちなし(1)、つるくさ(1)。〈3種〉。

計：9類〈28種〉。無回答(8)。

項目番号51：どくだみ

④地域〔千葉県・東京都境界地帯〕(1992-1994)

1)調査期間：1992-1994年

2)回答数：311(無回答を含む)

(1)[どくだみ]類と回答した音声の詳細——
どくだみ(226)、どくだみそー(2)、どくだみ(1)。〈3種〉

(2)[どくだめ]類と回答した音声の詳細——
どくだめ(14)、どくだめし(1)。〈2種〉

(3)[じごくそば]類と回答した音声の詳細——
じごくそば(33)、じこくそば(2)、じごくそは(1)。〈3種〉

(4)じゅーやく(5)。〈1類1種〉

以上の回答以外の回答は除外した。それは次に示すもの——

げんのしょーこ(2)、つわぶき(2)、
ゆきのした(2)、つゆくさ(1)、つわぶき(1)、どくそー(1)。〈6種〉

計：4類〈15種〉。無回答(21)。

項目番号51：どくだみ⑤地域〔東京都・神奈川県境界地帯〕(1994-1997)

1)調査期間：1994-1997年

2)回答数：170(無回答を含む)

項目番号51【どくだみ】にたいして

(1)[どくだみ]類と回答した音声の詳細——
どくだみ(126)、どくだめ(10)、どみだみ(1)。〈3種〉

(2)[じゅーやく]類と回答した音声の詳細——
じゅーやく(13)、じゅーあく(1)。〈2種〉

以上の回答以外の回答は除外した。それは次に示すもの——

げんのしょーこ(一)(3)、あめふりばな(1)。〈2種〉

計：2類〈4種〉。無回答(15)。

項目番号51【どくだみ】にたいして

項目番号127=52：おーばこ

質問文：「道ばたなどに、葉が根本から広がって生えている雑草は？／絵

項目番号52：おーばこ

①地域〔神奈川県横浜市・三浦半島〕

1)調査期間：1982/1983/1985年

2)回答数：628（無回答を含む）

項目番号52：【おーばこ】にたいして

(1)[おーばこ]類で回答した音声の詳細——

おーばこ (135)、おばこ (2)、おーばこ (1)、おーば (1)、おーぼこ (1)。〈5種〉

(2)[おんばこ]類で回答した音声の詳細——

おんばこ (245)、おんぼこ (1)、おんばこ (7)、おーんばこ (1)。〈4種〉

(3)[おんばく]類で回答した音声の詳細——

おんばく (103)、おんばっく (1)、おんばくろ (1)、みち おんばく (1)、やま おんばく (1)、おんば (1)、おんばく (11)、おーんばく (1)。〈8種〉

(4) [かえるっぱ] 類で回答した音声の詳細——

かえるっぱ (3)、げーるっぱ (3)、げーろっぱ (3)、かいろっぱ (1)、ほーずっぱ (1)。〈5種〉

(5)しゃぜんし (1)。〈1類1種〉

(6)じゅーばこ (1)。〈1類1種〉

以上の回答以外の回答は除外した。それは次に示すもの——

はこべ (6)、すかんぼ (2)、つかんぼ (1)、すかんぼ (1)、あか まんま (1) (3)、あかめ (1)、いたどり (1)、うま… (1)、きそっぱ (1)、しば (1)、せきりぐさ (1)、たばこのは (1)、ち

からぐさ (1)、ちゃが (1)、ゆきのした (1)、よつば (1)。〈16種〉。

計：6類〈40種〉。無回答 (77)。

項目番号52：おーばこ

②地域〔千葉県木更津市・君津市・富津市〕

1)調査期間：1986-1989年

2)回答数：480（無回答を含む）

項目番号52：【おーばこ】にたいして

(1)[おーばこ]類で回答した音声の詳細——

おーばこ (63)、おばこ (1)。〈2種〉

(2)[おんばこ]類で回答した音声の詳細——

おんばこ (10)、おんぼこ (7)、おんばっこ (3)。〈3種〉

(3) [おんぱっぱ] 類で回答した音声の詳細——

おんぱっぱ (149)、おんぱぱ (14)、おーんぱっぱ (11)、おんぱっぱ (6)、おーぱっぱ (2)、おぱんぱ (2)。以下は各1：おんぱぱ、おんぱっぱぐさ、おんぱっぱっ、おんぱっぱ、おんぱぱ、おーっぱぱ、おんぱは、おっぱんぱー、おんぱんぱ、おんぱおんぱ。〈16種〉

(4) [げーろっぱ] 類で回答した音声の詳細——

げーろっぱ (27)、げーろのおんぱっぱ (20)、げーろおんぱっぱ (5)、げーろんぱっぱ (5)、かえるのおんぱっぱ (3)、以下は各2：げろっぱ、げーろおんぱっぱ、げーろおんぱぱ、げーろんおんぱっぱ。以下は各1：げーろのおんぱっぱ、げーろんぱんぱ、かえるのはっぱ、かえるっぱ、かいるのおんぱっぱ、かえるのおんぱっぱ、かえろっぱ。〈16種〉

(5) [あんごっぱ] 類で回答した音声の詳細——

あんごっば(30)、以下は各1：あんごのおんばっば、あんごーっば。〈3種〉
以上の回答以外の回答は除外した。それは次に示すもの――

はこび(3)。以下は各2：くさ、くろば、はこべ。以下は各1：あおっばこ、おーば、おしょけっば、かいるのつつかんぼ、げーろ、すっかんぼー、すもーとりばな、つるむらさみ、なぎ、ねじりばな、やりぶすま、よじりっばな、よじりばな、らん。〈18種〉
計：5類〈58種〉。無回答(72)。

項目番号126=52：おーばこ

③地域〔千葉県千葉市・市原市・袖ヶ浦町〕

1)調査期間：1989-1992年

2)回答数：545(無回答を含む)

項目番号52：【おーばこ】にたいして

(1)[おーばこ]類で回答した音声の詳細――
おーばこ(83)、おばこ(3)、おーば(2)、おーばこ(1)。〈4種〉

(2)[おんばこ]類で回答した音声の詳細――
おんばこ(6)、おんばっば(3)。以下は各1：おんばこ、うんばこ、おんばこばん。〈5種〉

(3)[おんばっば]類で回答した音声の詳細――

おんばっば(32)、おっばっば(4)、以下は各2：おっばば、おーばっば。以下は各1：おんぱんば、おんぱんぱん、ぱんぱん、おっぱんば、おーばっば、ぱっば。〈10種〉

(4)[げーろっば]類で回答した音声の詳細――

げーろっば(294)、げろっば(5)、けーろっば(3)、以下は各1：げーろっばそ

ー、げーるっば、けーるっば、げいろっば、げーろのは。〈8種〉

(5)[がえろっば]類で回答した音声の詳細――

がえろっば(12)、がいろっば(12)、かえるっば(11)、かえるのは(5)、かえろっば(4)、かいるっば(1)。〈6種〉

(6)[ほーずっば]類で回答した音声の詳細――

ほーずっば(1)、ほーずきば(1)、ふーずっば(1)。〈1類3種〉

(7)[しゃぜんそー]類で回答した音声の詳細――

しゃぜんそー(1)。〈1類1種〉

以上の回答以外の回答は除外した。それは次に示すもの――

すも(一)とりぐさ(2)、よじりばな(2)。以下は各1：かいぐっば、くろーば、くろば、ごんぱく、すもーのくさ、だいだい、はくさ、まんごやし、みずひき、みつば、よっばらいぐさ。〈13種〉
計：7類〈50種〉。無回答(27)。

項目番号126=52：おーばこ

④地域〔千葉県・東京都境界地帯〕

1)調査期間：1992-1994年

2)回答数：320(無回答を含む)

項目番号52：【おーばこ】にたいして

(1)[おーばこ]類で回答した音声の詳細――
おーばこ(84)、おばこ(6)、おーば(1)。〈3種〉

(2)[おんばこ]類で回答した音声の詳細――
おんばこ(58)。〈1類1種〉

(3)[げーろっば]類で回答した音声の詳細――

げーろっば(49)。以下は各1：げろっ

- ば、げーろっぱ、けーろっぱ。〈4種〉
- (4) [かえろっぱ] 類で回答した音声の詳細——
かえろっぱ (4)、かえるっぱ (2)、がえろっぱ (1)。〈3種〉
- (5) [おんばっぱ] 類で回答した音声の詳細——
おんばっぱ (1)。〈1類1種〉
- (6) [どくだみ] 類で回答した音声の詳細——
どくだみ (1)。〈1類1種〉
- (7) [すもとりぐさ] 類で回答した音声の詳細——
すもとりぐさ (1)、すもーぐさ (1)。
〈1類2種〉
- 以上の回答以外の回答は除外した。それは次に示すもの——

はこべ (6)、あかまんま (2)。以下は各1：おんばくどん、げーろまんま、げんのしょーこ、じしげ、すかんぼー、のぐさ、ひっぱりぐさ、びんぼーそー、ぺんぺんぐさ、もえぎ、ゆきのした。〈13種〉
計：7類〈26種〉。無回答 (88)。

項目番号126=52：おーばこ

⑤地域〔東京都・神奈川県境界地帯〕

- 1) 調査期間：1994-1997年
2) 回答数：168 (無回答を含む)

項目番号52：【おーばこ】にたいして

- (1) [おーばこ] 類で回答した音声の詳細——
おーばこ (70)。〈1類1種〉
- (2) [おんばこ] 類で回答した音声の詳細——
おんばこ (29)、おんばぐさ (2)。以下は各1：おんばくさ、おんぱく。〈4種〉
- (3) [げーろっぱ] 類で回答した音声の詳細——
げーろっぱ (2)、かえるっぱ (1)。2

種〉

- (4) [どくだみ] 類で回答した音声の詳細——
どくだみ (1)。〈1類1種〉

以上の回答以外の回答は除外した。それは次に示すもの——

はこべ (2)、ぺんぺんぐさ (2)。以下は各1：あかまんま、かたばみ、かまほこ、きぼし、ぎぼし、ちからしば、ゆきのした。〈9種〉

計：4類〈17種〉。無回答 (50)。

参考資料2 インフォーマントの内省記録

項目番号51：どくだみ

質問文：「日陰に生える紫がかかった濃い緑の草です。悪い臭いがしますが、薬草でもあります。白い花をつけます。／絵」

項目番号51：どくだみ

地域〔房総半島南端〕

1) 調査期間：1973-1976年

66391451【じごくそば】は【どくだみ】より【古い】

3409【どくだみ】は【おできに効く】

3507【どくだみ】は【薬草】

7764【どくだーみ】より【どくだーめ】が【古い】

8469【インフォーマントは、どくだめ】と回答しが、【その娘さんは、どくだみ、と回答】

8586【おでき】を【薬で治す】(【灰をつける】)

9489【どくだーみ】より【どくだーめ】が【古い】

66494344【どくだーみ】を【修正して】【どくだみ】

5311【薬】

項目番号51：どくだみ①地域〔神奈川県横浜市・三浦半島〕

1)調査期間：1982/1983/1985年

2)回答数：621（無回答を含む） 計：3類
〈24種〉。無回答（14）。

66380575【どくだみ=今】。【どくだめ=昔】。

66380604【どくだみ】。【どくだめ=よく使う】。

66381531【どくだみ>どくだめ】。

66287580【どくだみ】に較べて【どくだめ=言葉の乱れ】。

66288587【まごやし】は【白い乳が出る】。

66285306【どくだみ】。【どくだめ】のほうが【昔はこっちが多い】。

66285857【どくだめ】。【どくだみ】=【こちらが多かった】。

66286718【どくだみ】と【どくだめ】は【同じように使う】。

66186127【この辺にはいないから知らない。ない】。

66186339【どくだみ】と【笑って言った】。

66188512【どくだみ】を言い直して【どくだめ（昔）】。

66180659【じゅーわく】と較べて【どくだめ】を【よく使う】。

66181245【じゅーわく】と較べて【どくだみ】は【あまり使わない】。

66181300【どくだみ】と較べて【じゅーわく】のほうが【普通】。

66182116【じゅーわく】=【今でも、昔も使う】。【どくだみ】=【今使う】。

66182135【じゅーわく・どくだめ】=【インフォーマントである夫が使う】。しかし、【妻は】=【どくだみ】を使う。

66182343【昔】は【じゅーわく】。【今】は【どくだみ】。

66184515【どくだみ】と較べて【どくだめ】は

【たまに使う】。

66188011【どくだめ】より【どくだみ】を【よく使う】。

項目番号51：どくだみ

②地域〔千葉県木更津市・君津市・富津市〕

1)調査期間：1986-1989年

2)回答数：456（無回答を含む）。 計：4類
〈33種〉。無回答（14）。

66298350【どくだめ】は【昔】。【どくだみ】は【今】。

66291737【どくだみ】以外に【どくだに】という【所もある】。

66198970【どくだみ】=【インフォーマントである夫が使う】。しかし、【妻】は、【おんぽっぱ（こ）・とも言うかね】と言った。

66199705【どくだに】。【おじいさん】は【どくだみ】と言った。

66199716【どくだに（に=ねっぽい）】は【小さい頃言った】。【どくだみ】は【今言う】。

66199934【どくだみ】と比較して【どくだめ】は【子供の頃に言った】。

項目番号51：どくだみ

③地域〔千葉県千葉市・市原市・袖ヶ浦町〕

1)調査期間：1989-1992年

2)回答数：521（無回答を含む） 計：9類
〈28種〉。無回答（8）。

67101280【どくだみ】と比較して【どくだね】が【普通】。

67102429【どくだみ】と比較して【げーろっぱ】が【古い】。

67104488【どくだみ】とは【言う】が、【どくだ

め】とは【言わない】。
 67007650【どくだね】は【この地域のことば】。
 【どくだめ】は【銚子】。
 67008653【どくだみ】は【今使われている】。【ど
 くだめ】は【昔よく使われていた】。
 67004622【どくだめ】は【今使われている】。【じ
 こくそば】は【昔使われていた】。
 67005670【どくだめ】と比較して【じこくそば】
 は【昔のことば】。
 67007833【じこくそば】は【根が白くて蕎麦(そ
 ば)に似ている】。
 67001587【どくだみ】と比較して【じこくそば】
 は【昔のことば】。
 67001590【どくだみ】と比較して【じゅこくそ
 ば】は【昔のことば】。
 67002468【現在の言葉である】【どくだみ】と比
 較して【じこくそば】は【昔のこと
 ば】。
 67002684【現在の言葉である】【どくだみ】と比
 較して【じゅーやく】は【昔のこと
 ば】。
 67002703【現在の言葉である】【どくだみ】と比
 較して【じこくそば】は【昔のこと
 ば】。
 67005802【じこくそば】は【神経痛のくすり】。
 67005855【昔】は、【どくだめ】が、【じこくそ
 ば】より【多かった】。
 57906601【じこくそば】は、【どくだみ】と比較
 して【多く使われる】。
 57907082【どくだみ】と比較して【じこくそば】
 は【昔のことば】。
 57907402【現在の言葉である】【どくだみ】と比
 較して【じこくそば】は【昔のこと
 ば】。
 57907426【どくだみ】と比較して【じこくそば】
 は【昔のことば】。
 57907505【どくだみ】と比較して【じこくそば】

は【昔のことば】。
 57907539【どくだみ】と比較して【じこくそば】
 は【昔のことば】。
 57909018【どくだみ】と比較して【じこくそば】
 は【昔のことば】。
 57909208【どくだみ】と比較して【じこくそば】
 は【昔のことば】。
 67000415【どくだみ】は【一般に普及】。【じこ
 くそば】は【今でも言う】。
 57904268【じこくそば】は【方言】。【どくだみ
 そー】は【標準語】。
 57904490【どくだみ】は【じこくそば】と比較
 して【上品】。
 57905059【どくだみ】と比較して【じこくそば】
 は【昔のことば】。
 57905207【じこくそば】と比較して【どくだみ】
 は【段々多く使われるようになった】。
 57905995【じこくそば】(匂いが地獄なのか?)
 57906961【どくだみ】と比較して【じこくそば】
 は【昔のことば】。
 57909770【どくだみ】と比較して【じこくそば】
 は【昔のことば】。

項目番号51：どくだみ

④地域〔千葉県・東京都境界地帯〕(1992-1994)

1)調査期間：1992-1994年

2)回答数：311(無回答を含む)。計：4

類<15種>。無回答(21)。

56993797【どくだみ】(腎臓の薬)

56986755【どくだみ】(腹下しに効く)

56987716【じゅーやく】(蛇を半殺しにしておい
 て、頭の上ののせてやると、蛇が動
 きだした)

項目番号51：どくだみ

⑤地域〔東京都・神奈川県境界地帯〕(1994-1997)

1) 調査期間：1994-1997年

2) 回答数：170 (無回答を含む)。 計：2

類く4種)。無回答 (15)。

66089508 【じゅーわく】 (古い)。【どくだみ】
(新)。

項目番号127=52：おーばこ

質問文：「道ばたなどに、葉が根本から広がっ
て生えている雑草は？／絵」

項目番号52：おーばこ

地域〔房総半島南端〕

1) 調査期間：1973-1976年

66394481 【ほーでっぱ】 (下剤になる)。

4518 【ほーぜっぱ】 (薬用。塩でもむ)。

4628 【ほーずいっぱ】 (塩でもんでしゃぶ
る)。

6959【ふーずっぱ】 (女の子のあそび。揉ん
で、膨らませて…)。

6980【ほーずいっぱ】 (ホオズキの葉。塩で
葉を揉む。そうして息を吹き込むと
丸く膨れる)。

7463 【ほーぜっぱ】 より 【おーばこ】 が昔
のもの。

9439 【とてっこ】 (車前草) は 【おーばこ】
より 【古い】。

9654 【ほーぜっぱ】 (塩漬けにして「ほーず
き」にした)。

9589【ほーぜっぱ】 (塩漬けにして、ホオズ
キのようにする女の遊び)。

66490561 【ほーぜっぱ】 (塩で揉んでならずと、
ホオズキのような音がする)。

0878【ほーずっぱ】 (塩で揉んで、ホオズキ
にする。ガマが食べる)。

0888 【ほーずっぱ】 (ホオズキにした)。

1544 【ほーでっぱ】 (葉を茹 (ゆ) でて食べ
るとおいしい)。

3863 【ほーじっぱ】 (ホオズキにする)。

4749 【おーばこ】 (学校で教えられこと
ば)。

66390599 【やまほーずき】 (丁寧な言い方)

1631【おばこ】 (日陰に干して、砂糖と一緒
にして咳止めにする)。

3349【ほーぜっぱ】 (塩漬けにして、しゃぶ
る。子供の頃)。

3800 【ほーずきっぱ】 (ホオズキにした)。

4481 【ほでっぱ】 (下剤になる)。

4498 【ほーぜっぱ】 (血止めになる)。

4683 【ほーぜっぱ】 (葉を塩で柔らかくし
た、鳴らす)。

4838 【ほーずえっぱ】 は、【ほーぜっぱ】 よ
り「丁寧」な言い方。

4948 【ほーずいっぱ】 は、【おーばこ】 より
【昔で古い言い方】。

6219 【ほーぜっぱ】 (実が赤くなる)。

6451【ほーぜっぱ】 (ホオズキのように、口
で吹いた)。

6589【ほーぜっぱ】 (葉を揉んで、口の中に
入れて笛のかわりにする)。

7509 【ほーぜっぱ】 (食べられる)。

8317 【ほーぜっぱ】 (薬)。

8624 【ほーず (い) っぱ】 (葉を塩でおして
食べられる)。

8896 【ほーずいっぱ】 (塩つけてしゃぶっ
た)。

9416【ほーでっぱ】 (咳、下痢には、根を煎
じる)。

9654【ほーぜっぱ】 (塩につけて糸で縛って
ホオズキにした)。

9758【ほーずいっぱ】 (ホオズキのようにし
て遊ぶ)。

9810 【ほーずっぱ】(ホオズキを作る)

項目番号52：おーばこ

①地域〔神奈川県横浜市・三浦半島〕

- 1) 調査期間：1982/1983/1985年
- 2) 回答数：628(無回答を含む)。計：6類<40種>。無回答(77)。

【おんばこ】

66182117(横浜市旭区本宿町)

【おんばこ】は、【おおばこ】より、【この近辺のことば】だ。

66184449(横浜市南区睦町)

【おんばこ】は、【普通に使う】。

66186137(横浜市戸塚区上倉田町)

【おんばこ】は、【おおばこ】より、【古くから使っていた】。

66189447(横浜市金沢区寺前町)

【おんばこ】は、【おおばこ】より、【古くから使っていた】。

66284702(横須賀安浦)

【おんばこ】は、【おおばこ】より、【古い】。

66285857(横須賀浦賀町)

【おんばこ】は、【おおばこ】より、【古くから使っていた】。

66286718(横須賀佐原)

【おんばこ】は、【おおばこ】より、【古くから使っていた】。

66381409(三浦市諸磯白須)

【おんばこ】(葉を塩で揉み、膨らまし、ホオズキにできる)。

【おんばく】

66188020(横浜市戸塚区東俣野町)

【おんばく】は、【おおばこ】よりも、【老人のことば】だ。

66188504(横浜市金沢区富岡東)

【おんばく】は、【おおばこ】より、【古くから使っていた】。

66284414(葉山町上山口)

【おんばく】は、【おおばこ】より、【古い】。

66380585(三浦市三崎町六合)

【かいろっぱ】は、【おんばく】より【昔からのことば】。

【かえるっぱ】

66184449(横浜市南区睦町)

【かえるっぱ】は、【あまり使わない】。

66286632(横須賀市武)

【かえるっぱ】は、【おおばこ】より、【古い】。

項目番号52：おーばこ

②地域〔千葉県木更津市・君津市・富津市〕

- 1) 調査期間：1986-1989年
- 2) 回答数：480(無回答を含む) 計：5類<58種>。無回答(72)。

66295408【おんばこ】は、【おおばこ】より、【古くから使っていた】。

7761【げーろおんばっぱ】は【おおばこ】より、【古くから使っていた】。

8421【おおばこ】も【げーろっぱ】も【同じ頻度で使っている】。

9258【げーろっぱ】は、【おおばこ】よりも【小さい】。

9878【あんごっぱ】(ぐったり死にかかった蛙を、この葉っぱで、包むようにすると元気がでるといふ)。

66390667【あんごっぱ】は、【おおばこ】より、【多く使う】。

66298735【おんばっぱ】は、【おおばこ】より、【昔から使われていた】。

- 4885【げーろっぱ】(知らない人もいる。あまり使わない)。
- 4886【おんぱっぱ】は、【おおばこ】より、【昔から使われていた】。
- 5517【おんぱぱ】(今でも、子供、中年は知らないと思う)。
- 66198762【おおばこ】(固い言い方)。
- 9498【おんぱっぱ】(よく分からない)。
- 9716【おんぱっぱ】は、【おおばこ】より、【昔から使われていた】。
- 9953【おんぱっぱ】(昔も今も言う)。
- 66194607【おんぱっぱ】と【おんぱっこ】(同じくらい使う)。
- 5699【げーろっぱ】(お年寄りが使っているのを、1、2回聞いたことはある)。
- 6639【おんぱっぱ】は、【おおばこ・おんぱこ】に較べて、【もっとも自然に頻繁に使う】。
- 66195710【げーろっぱ】は、【おおばこ】とは違う。
- 5970【おーんぱっぱ】(昔から使われている)。「おおばこ」(今)。
- 67101261【げーろっぱ】は、【おんぱっぱ】よりも【古い】。
- 3004【おんぱこ】・【げーろっぱ】(昔、小さい子供が使った)。
- 3004【おんぱっぱ】(女の子がよく使った)。
- 66297761【げーろおんぱっぱ】は、【おおばこ】より【昔から使われていた】。
- 8421【げーろっぱ】と【おおばこ】とは【同じくらいの頻度で使う】。
- 項目番号126=52：おーばこ
- ③地域〔千葉県千葉市・市原市・袖ヶ浦町〕
- 1) 調査期間：1989-1992年
- 2) 回答数：545(無回答を含む) 計：7
- 類 <50種>。無回答(27)。
- 67009268【おんぱっぱ】と【げーろっぱ】のうち【兎に食べさせたのは】、【おんぱっぱ】だった。
- 67100261【おっぱんぱ】は【兎に食べさせる】。
- 0314【げーろっぱ】と【おおばこ】の中で、正式名ものは【おおばこ】。
- 0334【おおばこ】は、【げーろっぱ】より【上品だ】。
- 0556【げーろっぱ】と【かえろっぱ】は共に、【おおばこ】より【古い】。
- 1453【おんぱっぱ】は、【おんぱこ】と違って、【百姓の人が多く使う】。
- 1485【かえろっぱ・げーろっぱ】が【おおばこ】と違う点は、【子供の時に使ったことば】である点です。【おおばこ】は現代風で、【現在使用です】。
- 1532【おーぱっぱ】が、【おおばこ】と違う点は、【子供のころ使った】である。
- 3453【おんぱっぱ】は、【兎に食わせた】。
- 4488【げーるっぱ】は知っている。しかし、【おおばこ】は【知らない】。
- 5418【げーるっぱ】より、【おんぱぱ】が多く使われる。
- 5427【おっぱっぱ】は知っている。しかし、【おおばこ】は【聞くが、言わない】。
- 67105582【おおばこ】と比較して、【げーろっぱ】は、【古い言い方】だ。
- 67006573【しゃぜんそう】は【薬草の学名】である。
- 8438【げーろっぱ】より【おんぱっぱ】。
- 9557【げーろっぱ】とは言う。しかし、【おおばこ】とは【言わない】。
- 67004419【おおばこ】と比較して、【げーろっぱ】

- は、【よく使う】。
- 4521 【おおばこ】より【げーろっぱ】の方が【昔だ】。
- 7546 【おおばこ】より【げーろっぱ】の方が【昔だ】。
- 7833 【げーろっぱ】とは【縞が蛙の縞に似ている】。
- 8526 【がいろっぱ】より【おんばこ】のほうが【よく使われる】。
- 67100520 【げーろっぱ】と【おおばこ】の違いは？【げーろっぱ】の葉の大きさが【おおばこ】の葉の大きさやり小さいことだ。
- 0656 【おおばこ】より【げーろっぱ】の方が【昔だ】。
- 67001587 【おおばこ】より【げーろっぱ】の方が【昔だ】。
- 1622 【おおばこ】より【げーろっぱ】の方が【よく使われる】。
- 1676 【おおばこ】より【げーろっぱ】の方が【昔だ】。
- 1685 【おおばこ】より【げーろっぱ】の方が【昔から使われている】。
【おおばこ】は標準語。
- 2458 【おおばこ】より【げーろっぱ】の方が【昔から使われている】。
- 2665 【げーろっぱ・がえろっぱ】は【蛙が食べるから】。
- 2684 【おおばこ】より【げーろっぱ】の方が【昔から使われている】。
- 3508 【おおばこ】より【げーろっぱ】の方が【昔から使われている】。
- 3531 【がいろっぱ】・【すもうとりぐさ】は共に【子供が使っている】。
【おおばこ】は標準語。
- 5855 今は【がえろっぱ】よりは、【おばこ】を使っている。
- 57905133 【げーろっぱ】は【昔はよく使った】。
- 6075 【げーろっぱ】・【おんばこ】は同じように使う。
- 6205 【げーろっぱ】(昔)。
- 6585 【げーろっぱ】は【かえるのは】とも言う。
- 6601 【げーろっぱ】は【おおばこ】より【多く使われる】。
- 7516 【げーろっぱ>がえろっぱ】は【兎に食べさせた】。
- 7539 【おおばこ】より【げーろっぱ】の方が【昔だ】。
- 8213 【げーろっぱ】は【兎の餌。その他アザミ、タンポポ】。
- 9151 【げーろっぱ】とは【言わない】。
- 9471 【げーろっぱ】は【子供のとき、兎の餌として取った】。
- 57904491 【げーろっぱ】は【兎に食べさせる】。
- 5995 【げーろっぱ】は【背中と葉が似ている】。
- 6102 【げーろっぱ】は【おおばこ】より【多く使われる】。
- 6878 【がいろっぱ】(蛙が怪我をしたときに、この“がいろっぱ”の下に行く)と治る)。
- 6951 【すも一のくさ】(昔)。
【おおばこ】(今)。
- 7770 【おおばこ】より【げーろっぱ】のほうが【多い】。
*子供のころは【げーろっぱ】。大人になると【おおばこ】。
- 9981 【げーろっぱ】は【兎に食べさせる】。

項目番号126=52：おーばこ

④地域〔千葉県・東京都境界地帯〕

1) 調査期間：1992-1994年

2) 回答数：320 (無回答を含む) 計：7

類 <26種>。無回答 (88)。

56992786 【げーろっぱ】は【「おんばこ」とは違う】。

3707 【おんばこ】は標準語。

【がえろっぱ】は【蛙に似ているから】。

3708 【げーろっぱ】のほうが、【おんばこ】より【多く使った】。

3797 【おんばこ】(兎に食べさせた)。

3907 【おーばこ】(今)。【げーろっぱ】(古)。

3922 【げーろっぱ】が【ほとんどこれが使われる】。

3957 【げーろっぱ】は、【おーばこ】より【昔】。

3960 【げーろっぱ】(普通)

5886 【げーろっぱ】(兎の餌にする)。

5901 【げーろっぱ】(百姓のことば)。

5902 (この地域では)【げーろっぱ】。

6838【げーろっぱ】(1. 子供の頃こう呼んだ。2. 今言っても通じないだろう)。

7792【げーろっぱ】・【おんばこ】(両方つかうが「げーろっぱ」のほうが程度が低い言い方)。

56995525 【すもーとりぐさ】(俗称)

56995006 【げーろっぱ】(栃木疎開地で)

6118【かえるっぱ】・【おおば】(どちらも使う)。

6163 【はこべ】(兎が食べる)

8357 【おーばこ】よりも【おんばこ】のほうを言う。

66090478 【おんばこ】(ひっぱり合って遊んだ)。

56983900 【げーろっぱ】(くこの草から)汁をだして飲ますと、癩痢(てんかん)に効く)。

9607 【おんばこ】(昔の言い方)

項目番号126=52:おーばこ

⑤地域〔東京都・神奈川県境界地帯〕

1) 調査期間:1994-1997年。

2) 回答数:168(無回答を含む)。計:4

類 <17種>。無回答 (50)。

66081844 【おんばこ】(会話)。【おーばこ】(正式)。

66089811【おんばくさ】(塩で揉み、はっぱを風船のようぬ膨らまして遊んだ)

66086648 【かえるっぱ】(昔)。【おーばこ】(今)。

9668 【おんばこ】(聞かない)。

66084912 (千葉では、【げーろっぱ】と言っていた)。
